

生薬総則（第十六改正日本薬局方）

「生薬学」授業補助プリント1

1. 医薬品各条の生薬は、動植物の薬用とする部分、細胞内容物、分泌物、抽出物又は鉱物などであり、生薬総則及び生薬試験法を適用する生薬は次のとおりである。

アカメガシワ、アセンヤク、アセンヤク末、アマチャ、アマチャ末、アラビアゴム、アラビアゴム末、アロエ、アロエ末、アンソッコウ、イレイセン、インチンコウ、インヨウカク、ウイキョウ、ウイキョウ末、ウコン、ウコン末、ウヤク、ウワウルシ、エイジツ、エイジツ末、エンゴサク、エンゴサク末、オウギ、オウゴン、オウゴン末、オウセイ、オウバク、オウバク末、オウヒ*、オウレン、オウレン末、オンジ、オンジ末、ガイヨウ*、カゴソウ、カシュウ、ガジュツ、カッコウ、カッコン、カッセキ、カノコソウ、カノコソウ末、カロコン、カンキョウ、カンゾウ、カンゾウ末、カンテン、カンテン末、キキョウ、キキョウ末、キクカ、キササゲ、キジツ、キョウカツ、キョウニン、クコシ、クジン、クジン末、ケイガイ、ケイヒ、ケイヒ末、ケツメイシ、ケンゴシ、ゲンチアナ、ゲンチアナ末、ゲンノショウコ、ゲンノショウコ末、コウイ、コウカ、コウジン、コウブシ、コウブシ末、コウベイ、コウホク、コウボク末、ゴオウ、ゴシツ、ゴシュユ、ゴボウシ、ゴマ、ゴミシ、コロombo、コロombo末、コンズランゴ、サイコ、サイシン、サフラン、サンキライ、サンキライ末、サンザシ、サンシシ、サンシシ末、サンシユユ、サンショウ、サンショウ末、サンソウニン、サンヤク、サンヤク末、ジオウ、シゴカ、ジコッピ、シコン、シツリシ、シヤカンゾウ*、シヤクヤク、シヤクヤク末、ジャシヨウシ、シャゼンシ、シャゼンソウ、ジュウヤク、シュクシャ、シュクシャ末、シヨウキョウ、シヨウキョウ末、シヨウズク、シヨウマ、シンイ、セッコウ、セネガ、セネガ末、センキユウ、センキユウ末、ゼンコ、センコツ、センソ、センナ、センナ末、センブリ、センブリ末、ソウジュツ、ソウジュツ末、ソウハクヒ、ソボク、ソヨウ、ダイオウ、ダイオウ末、タイソウ、タクシャ、タクシャ末、チクセツニンジン、チクセツニンジン末、チモ、チヨウジ、チヨウジ末、チョウトウコウ、チヨレイ、チヨレイ末、チンピ、テンマ、テンモンドウ、トウガシ、トウガラシ、トウガラシ末、トウキ、トウキ末、トウニン、トウニン末、トウヒ、ドクカツ、トコン、トコン末、トチュウ、トラガント、トラガント末、ニガキ、ニガキ末、ニクジュヨウ*、ニクズク、ニンジン、ニンジン末、ニンドウ、バイモ、バクガ*、バクモンドウ、ハチミツ、ハッカ、ハマボウフウ、ハンゲ、ビヤクゴウ、ビヤクシ、ビヤクジュツ、ビヤクジュツ末、ピワヨウ、ビンロウジ、ブクリヨウ、ブクリヨウ末、ブシ、ブシ末、ベラドンナコン、ヘンズ、ボウイ、ボウコン、ボウフウ、ボクソク、ボタンピ、ボタンピ末、ホミカ、ボレイ、ボレイ末、マオウ、マクリ、マシニン、モクツウ、モッコウ、ヤクチ、ヤクモソウ、ユウタン、ヨクイニン、ヨクイニン末、リュウガンニク、リュウコツ、リュウコツ末、リュウタン、リュウタン末、リョウキョウ、レンギョウ、レンニク、ロジン、ロートコン、ローヤルゼリー。（*は第一・二追補で追加された）

2. 生薬は、通例、全形生薬、切断生薬又は粉末生薬に分けて取り扱う。全形生薬は、その薬用とする部分などを乾燥し、又は簡単な加工をしたもので、医薬品各条に規定する。切断生薬は、全形生薬を小片若しくは小塊に切断若しくは破碎したもの、又は粗切、中切若しくは細切したものであり、別に規定するもののほか、これを製するに用いた全形生薬の規定を準用する。粉末生薬は、全形又は切断生薬を粗末、中末、細末又は微末としたものであり、通例、細末としたものについて医薬品各条に規定する。

3. 生薬は、別に規定するもののほか、乾燥品を用いる。乾燥は、通例、60℃以下で行う。

4. 生薬の基原は適否の判定基準とする。生薬の基原として、「その他同属植物」、「その他同属動物」、「その他近縁植物」及び「その他近縁動物」などを記載するものは、通例、同様の成分、薬効を有する生薬として用いられる原植物又は原動物をいう。

5. 生薬の性状の項は、その生薬の代表的な原植物又は原動物に基づく生薬について、通例、その基準となる特徴的な要素を記載したものである。そのうち、色、におい及び溶解性については、においを適否の判定基準とすることを除き、通則の規定を準用する。また、味及び鏡検時の数値は、適否の判定基準とする。

6. 粉末生薬のうち、別に規定するものについては賦形剤を加え、含量又は力価を調節することができる。

7. 粉末生薬は、これを製するに用いた全形又は切断生薬中に含まれていない組織の破片、細胞、細胞内容物又はその他の異物を含まない。

8. 生薬は、かび、昆虫又は他の動物による汚損物又は混在物及びその他の異物をできるだけ除いたものであり、清潔かつ衛生的に取り扱う。

9. 生薬は、別に規定するもののほか、湿気及び虫害などを避けて保存する。虫害を防ぐため、適当な薫蒸剤を加えて保存することができる。ただし、この薫蒸剤は常温で揮散しやすく、その生薬の投与量において無害でなければならない。また、その生薬の治療効果を障害し、又は試験に支障をきたすものであってはならない。

10. 生薬に用いる容器は、別に規定するもののほか、密閉容器とする。

生薬学小史

「生薬学」授業補助プリント 2

しんのうほんぞうきょう

神農本草経：中国最古の薬物書（後漢 1 世紀頃の成立）、撰者不明

365 種の生薬 独特の分類

上品 120 種：君薬 不老延年 無毒

中品 120 種：臣薬 性を養う（体調・症状を改善）有無毒

下品 125 種：佐使薬 病気の治療 有毒

めいいべつろく

名医別録：後漢末から六朝時代に成立、撰者不明

365 種の生薬：上中下三品分類

傷寒雑病論（→傷寒論・金匱要略）：張仲景(150?年~219 年)著といわれる、陰陽学説

しんのうほんぞうきょうしゅちゅう

神農本草経集注：梁・陶弘景(456 年-536 年)撰、神農本草経・名医別録の注釈書

730 種の生薬：実質的には中国最初の局方、500 年前後に成立

自然分類を採用、鉱物・草本・木本・鳥獣・虫魚等の各上中下三品分類

飛鳥時代に渡来、平安初期まで日本で用いられる

しんしゅうほんぞう

新修本草：蘇敬撰、659 年成立、唐の国選本草書

850 種の生薬、奈良時代の日本に渡来、平安時代中期以降日本の標準本草書

外台秘要・千金要方・千金翼方など唐代医書が利用

かいほうほんぞう

開放本草：“第三版中国薬局方”、973 年成立

→ 経史証類備急本草（11 世紀末、唐慎微(1040?年-1120 年)撰

1700 種の生薬を収載、太平聖恵方・和剂局方など宋代医書

金・元時代以降は陰陽五行思想に基づく金元医学(李東垣(1180 年-1251 年)、朱丹溪(1281 年-1358 年)など)が中国医学の主流となる

ほんぞうひんいせいよう

本草品彙精要：1505 年成立、明・劉文泰撰、金元医学に対応した最初の本草書

内容は証類本草とほとんど変わらず、宮廷内に秘蔵したため普及せず

ほんぞうこうもく

本草綱目：明・李時珍(1518 年-1593 年)撰、1590 年刊、金元医学対応

1890 種の生薬 中国本草の集大成

上中下三品分類を廃止、水部・火部・土部・金石部、草部（山草類・毒草類等）、穀部（麻
麦稻類等）、菜部（水菜類等）、果部（五果類等）、木部（香木類等）などに分類する

門(division)

綱(class)

亜綱(subclass)

目(order)

科(family)

亜科(subfamily)

連(tribe)

属(genus)

節(section)

種(species)

亜種(subspecies)

変種(variety)

品種(form)

表 1 植物の分類階級 1

小葉植物門 (Microphyllphyta)	維 管 束 植 物	シダ植物	
リニア門 (Rhiniophyta)			
有節植物門 (Sphenophyta)			
シダ門 (Pterophyta)			
原裸子植物門 (Progymnospermophyta)		種 子 植 物	裸子植物
ソテツ門 (Cycadophyta)			
イチョウ門 (Ginkgophyta)			
球果植物門 (Coniferophyta)		被子植物	
マオウ門 (Gnetophyta)			
被子植物門 (Anthophyta)			

表 2 植物の分類階級 2

被子植物門 (Anthophyta)

単子葉植物綱 (Monocotyledonopsida)

双子葉植物綱 (Dicotyledonopsida)

離弁花亜綱 (Archichlamiidae)

合弁花亜綱 (Sympetalidae)

キキョウ目 (Campanulales)

キキョウ科 (Campanulaceae)

キキョウ亜科 (Campanuloideae)

キキョウ連 (Platycodinae)

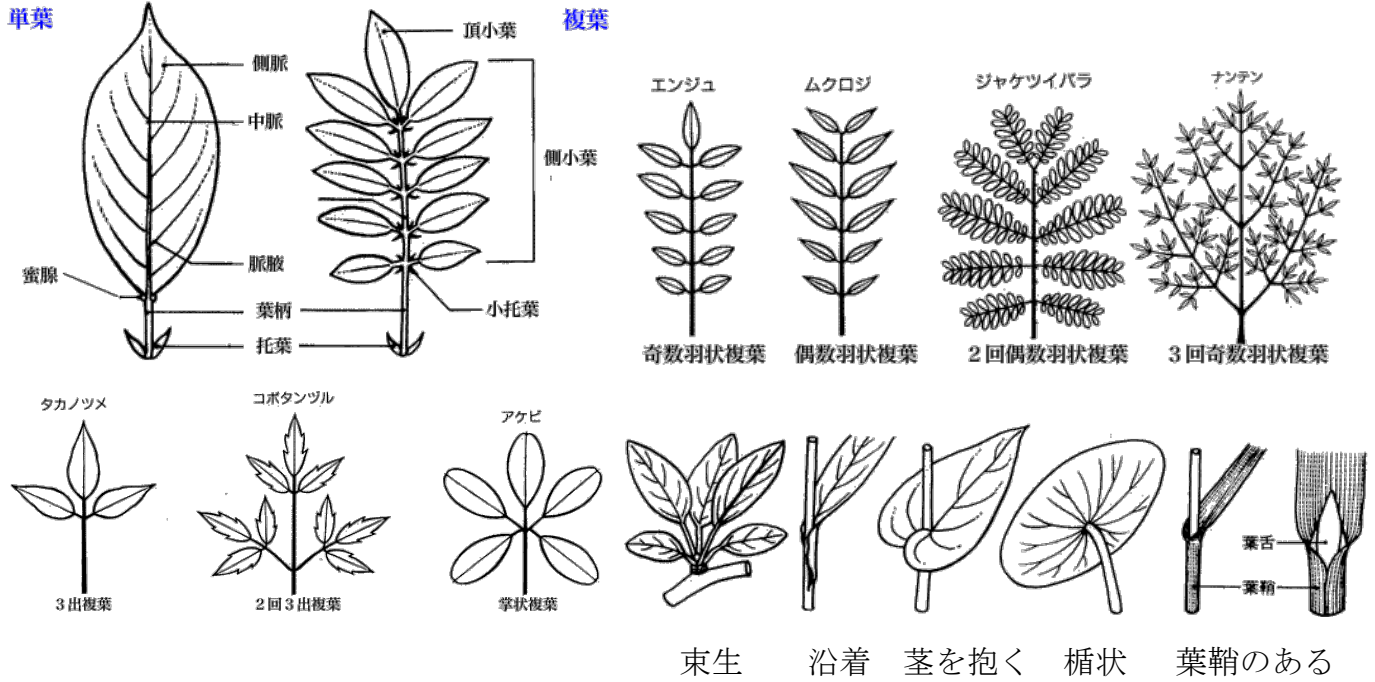
キキョウ属 (Platycodon)

キキョウ

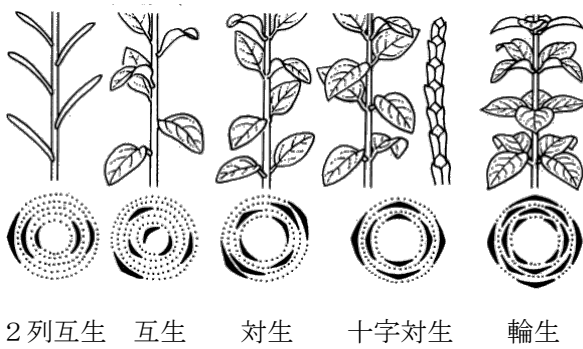
表 3 植物の分類階級 3

Platycodon grandiflora A. de Candolle

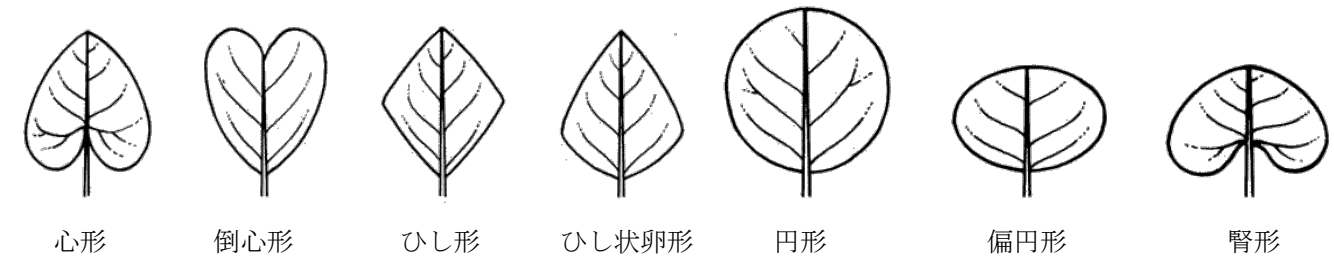
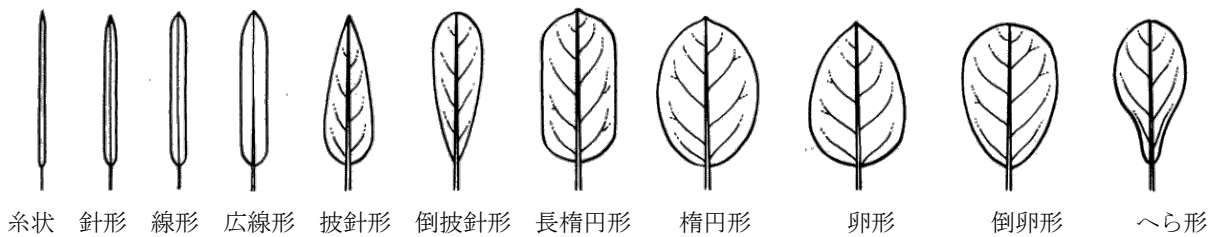
1. 葉身の形態



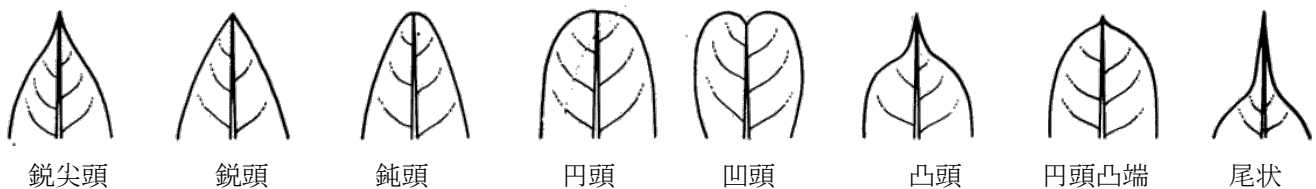
2. 葉序



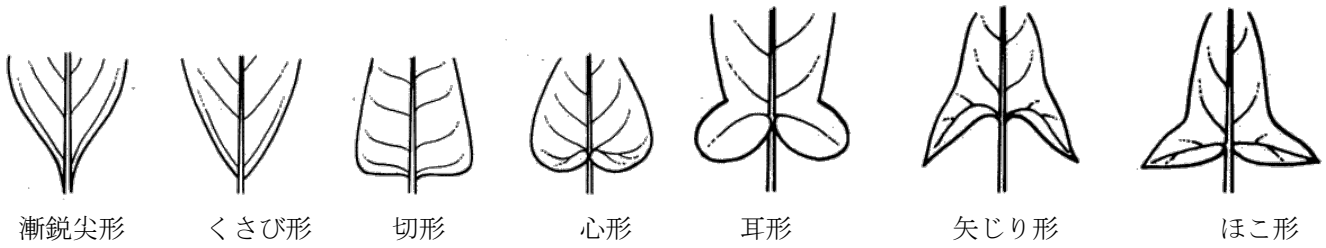
2. 1 単葉、小葉の形態



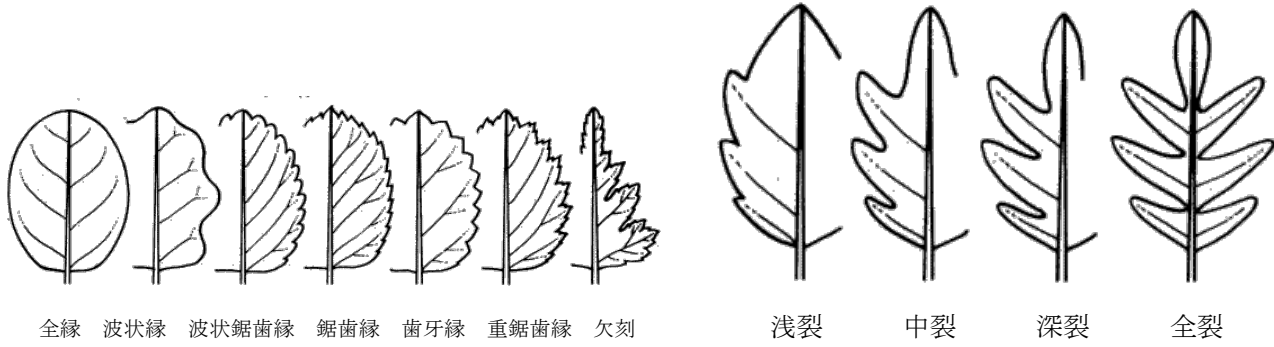
2. 2 葉先の形態



2. 3 葉基部の形態

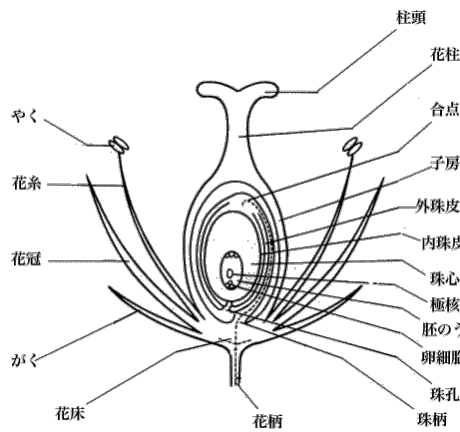


2. 4 葉の縁の形態と裂け方

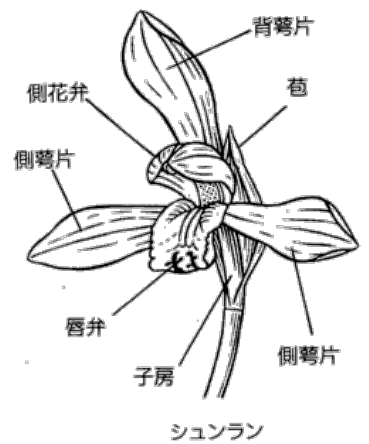
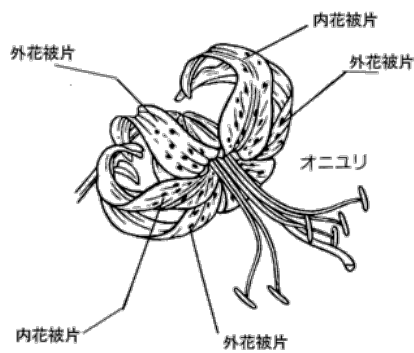
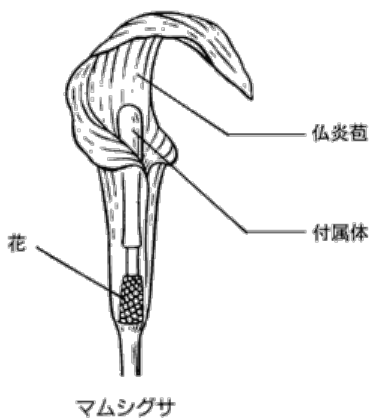


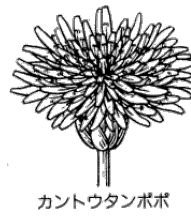
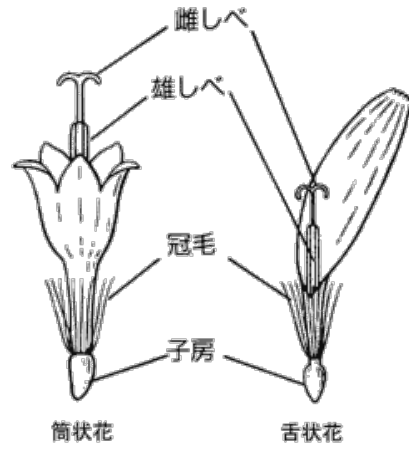
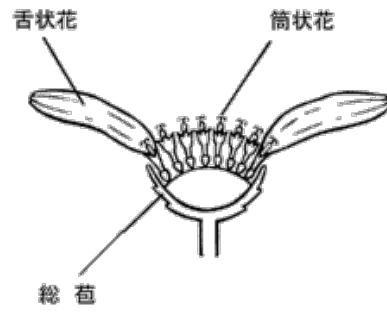
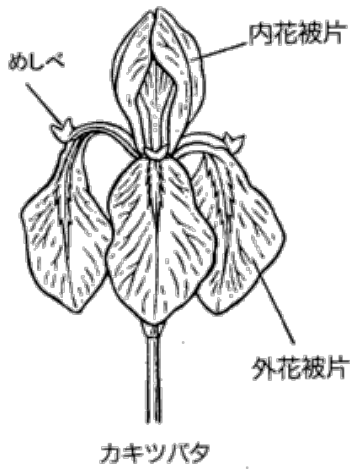
2. 花の構造

2. 1 花の構造

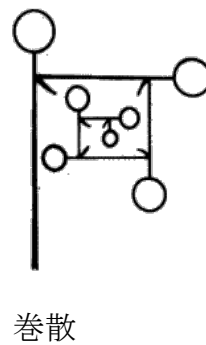
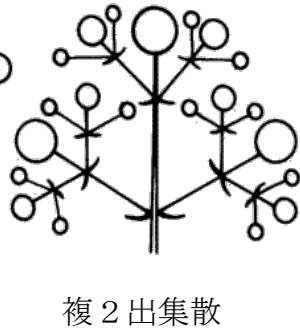
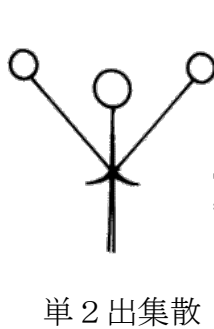
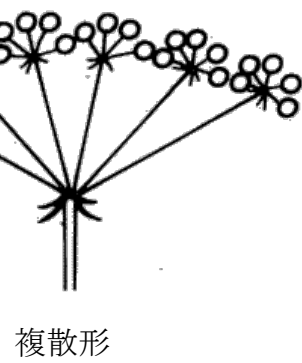
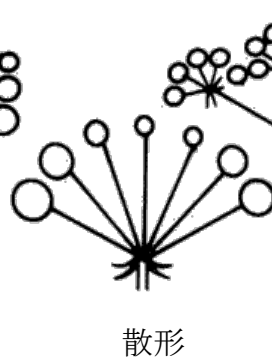
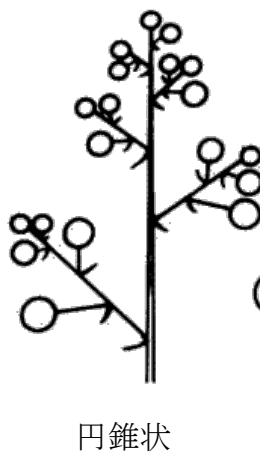
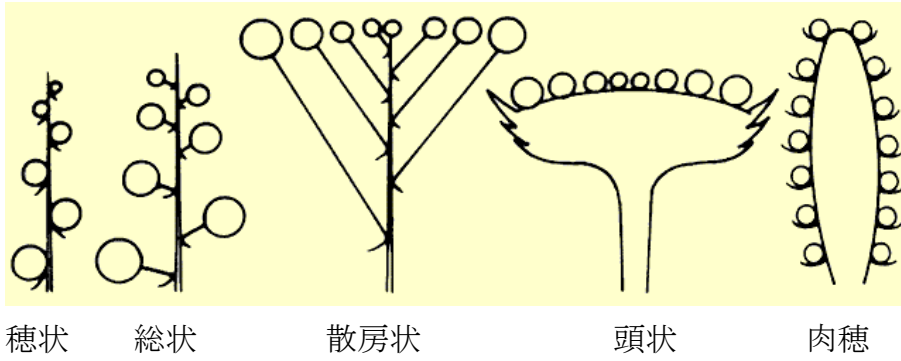


2. 2 様々な花の形態





2.3 花序



3. 1 果実の形態



堅果



瘦果



穎果



翼果



双懸果



豆果



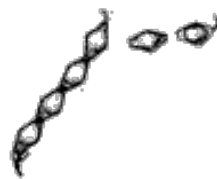
袋果



さく果



孔さく果



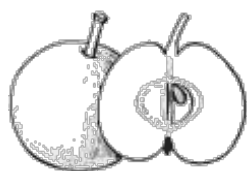
節ざや果



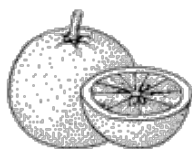
石果



液果

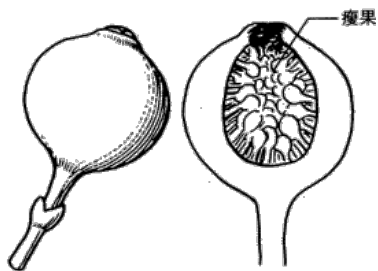


なし状果

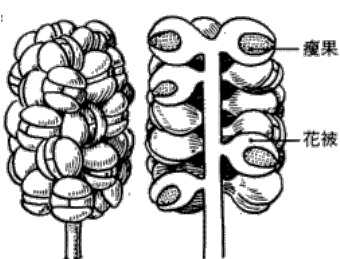


ミカン状果

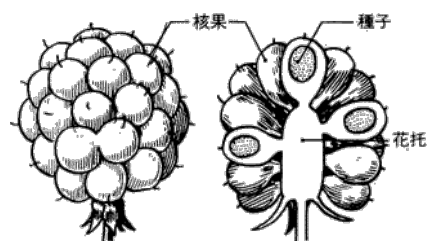
3. 2 集合果、複果の形態



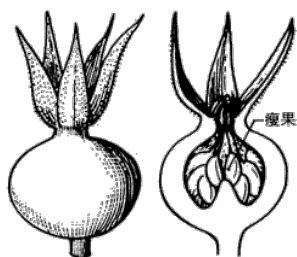
イチジク状果



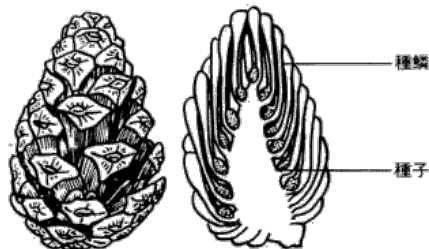
クワ状果



キイチゴ状果

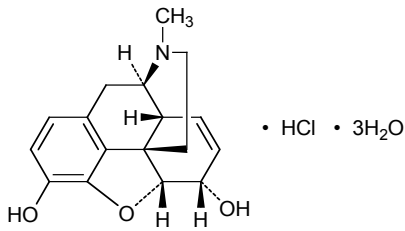


バラ状果実

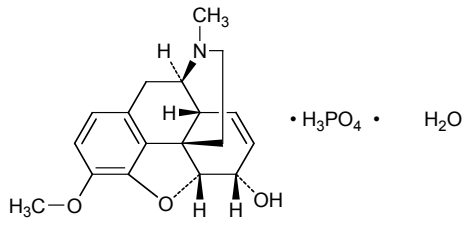


毬果

アヘン末 (局)

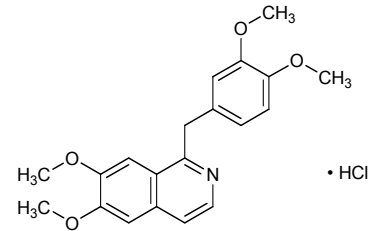


モルヒネ(Morphine)塩酸塩水和物

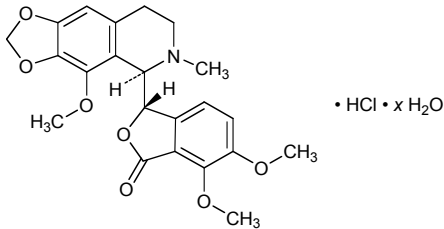


コデイン(Codeine)リン酸塩水和物

「生薬学」授業補助プリント4

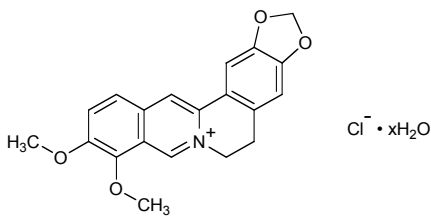


パパベリン(Papaverine)塩酸塩



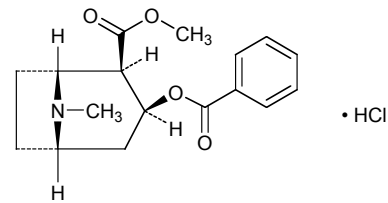
ノスカピン(Noscapine)塩酸塩水和物

オウバク (局)



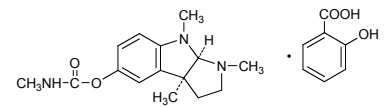
ベルベリン(Berberine)塩化物水和水物

コカ葉 (第三局方)



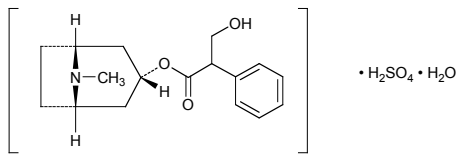
コカイン(Cocaine)塩酸塩

カラバル豆 (第一～第四局方)

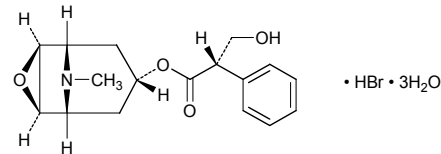


フィズスチグミンサリチル酸塩

ロートコン (局)

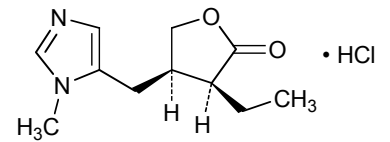


アトロピン(Atropine)硫酸塩水和物



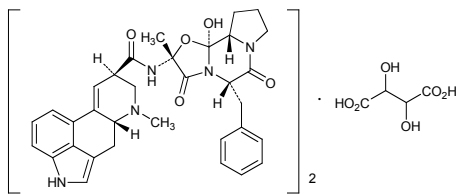
スコポラミン(Scopolamine)臭化水素酸水和水物

ヤボランジ葉 (第一～第四局方)

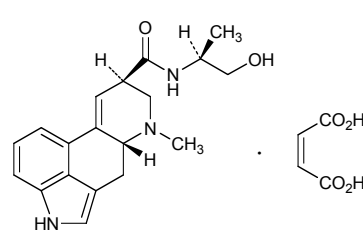


ピロカルピン(Pilocarpine)塩酸塩

バッカク (第一～第八局方)

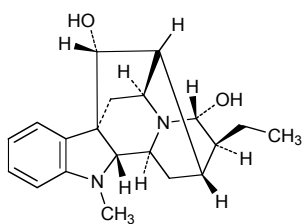


エルゴタミン(Ergotamine)酒石酸塩

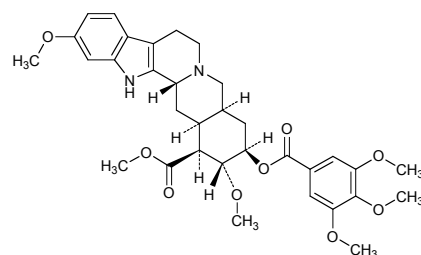


エルゴメトリン(Ergometrine)マレイン酸塩

ラウオルフィア (第七局方)

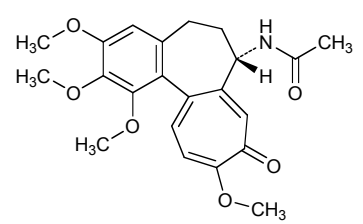


アジマリン(Ajmaline)



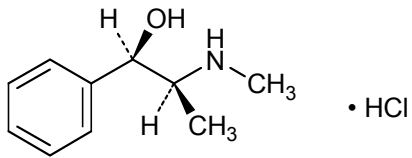
レセルピン(Reserpine)

コルヒコム子 (第一～第四局方)



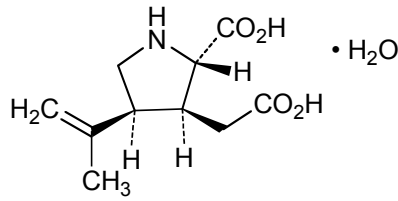
コルヒチン(Colchicine)

マオウ (局)



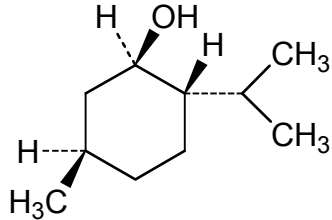
エフェドリン(Ephedrine) 塩酸塩

マクリ (局)



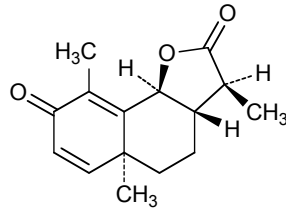
カイニン酸(Kainic acid)水和物

ハッカ (局)



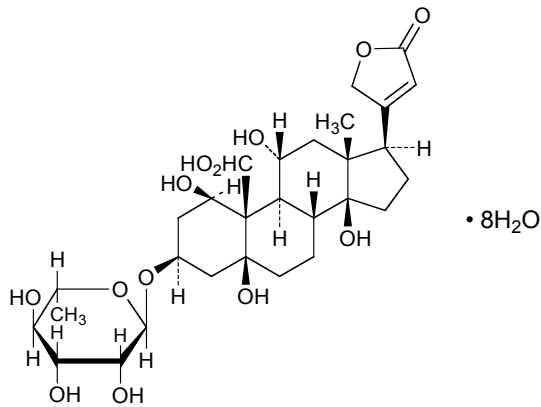
l-メントール(Menthol)

シナ花 (第一～第五局方・国民医薬品集第一版)



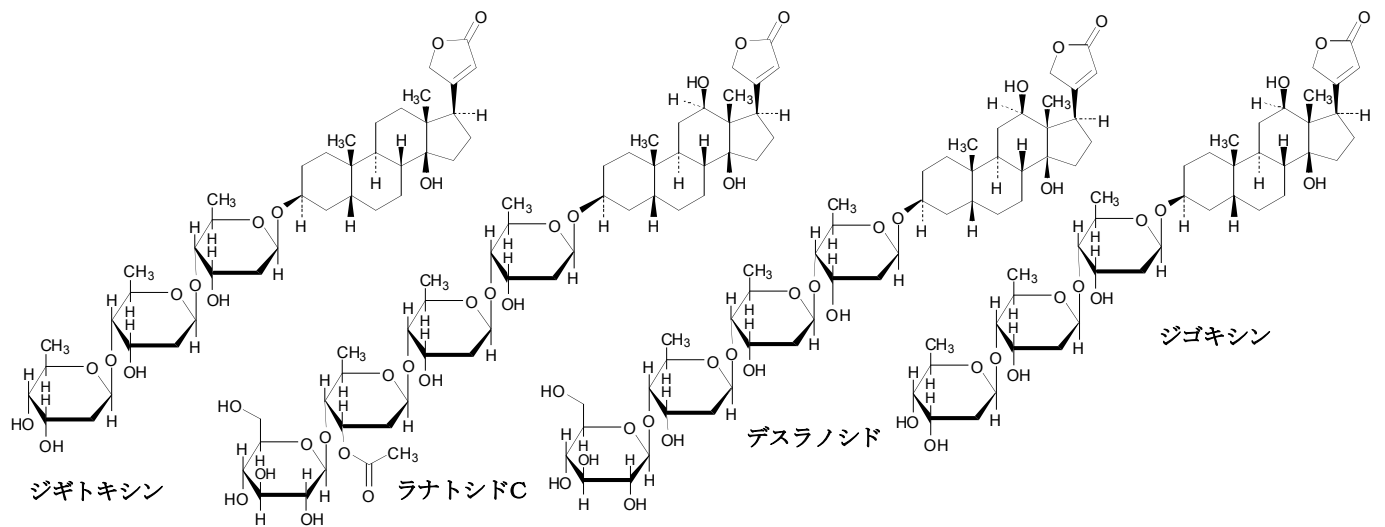
サントニン(Santonin)

ストロファンツ (第二～第六局方)



G-ストロファンチン(Strophanthin)水和物

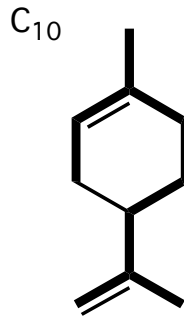
ジギタリス (第一～第十四局方)



ステロイド・テルペノイド

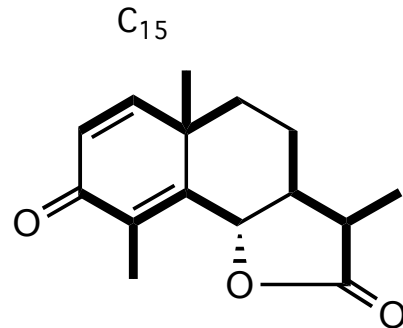
「生薬学」授業補助プリント 5

モノテルペン



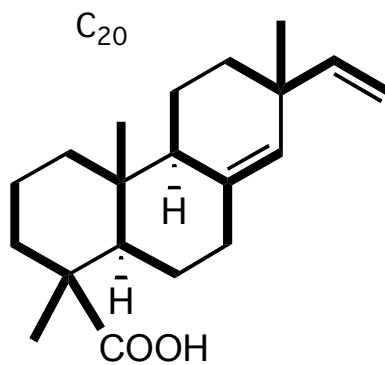
Limonene
カンキツの精油成分

セスキテルペン



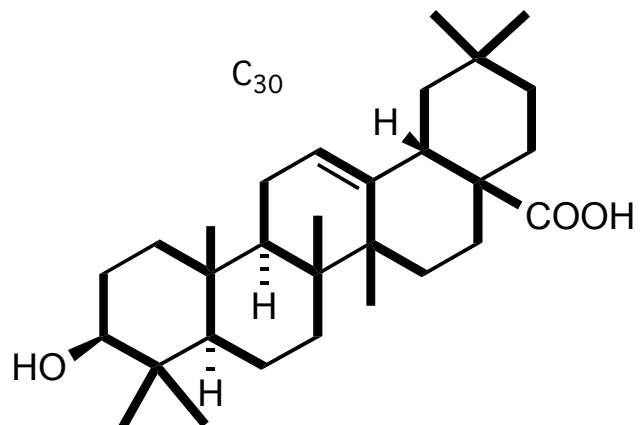
(-)- α -Santonin
シナ花の駆虫成分

ジテルペン



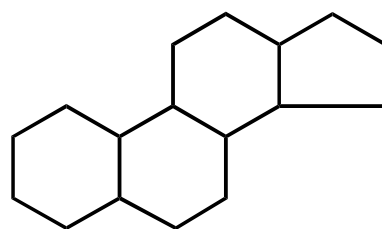
Pimaric acid
ロジンの成分

トリテルペン



Oleanolic acid
様々な植物に広く含まれる
トリテルペン

ステロイド骨格

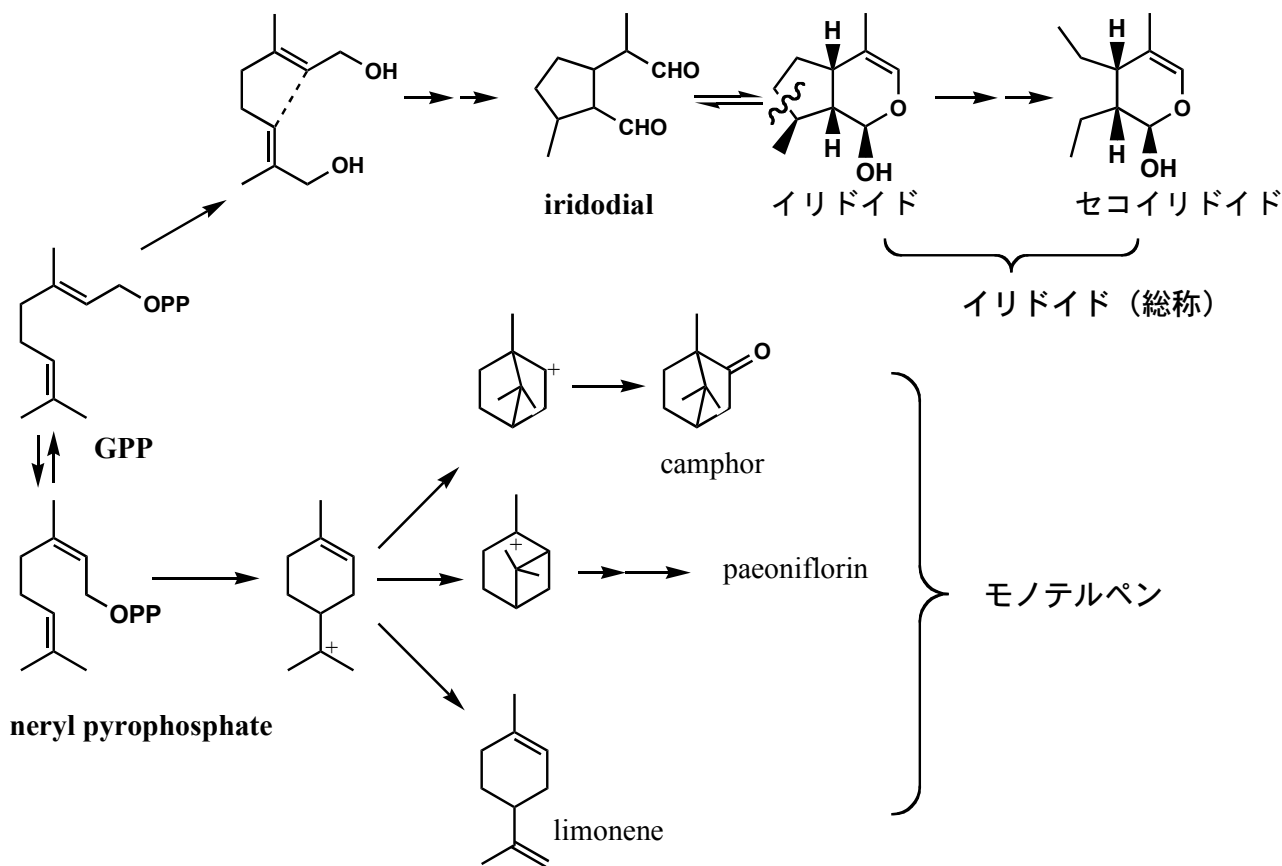


C₂₁ - C₂₈

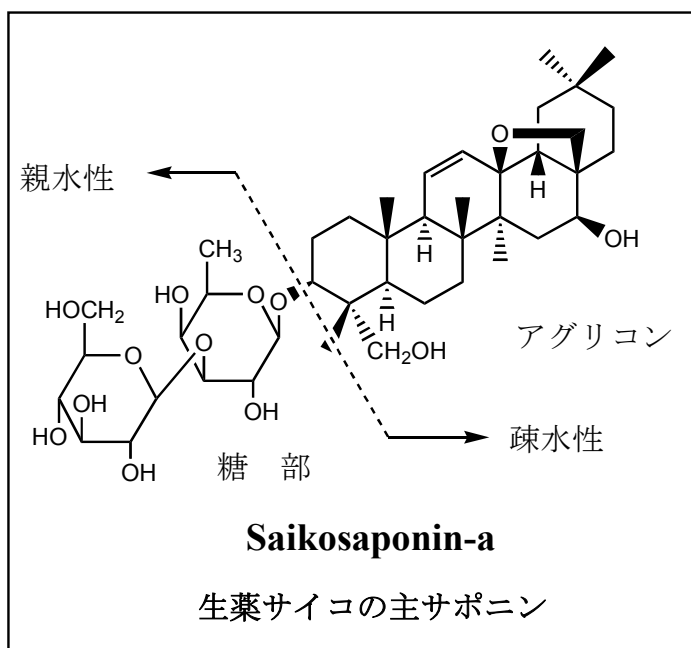
モノテルペン・イリドイドとサポニン

「生薬学」授業補助プリント 6

1. モノテルペンとイリドイド



2. サポニン

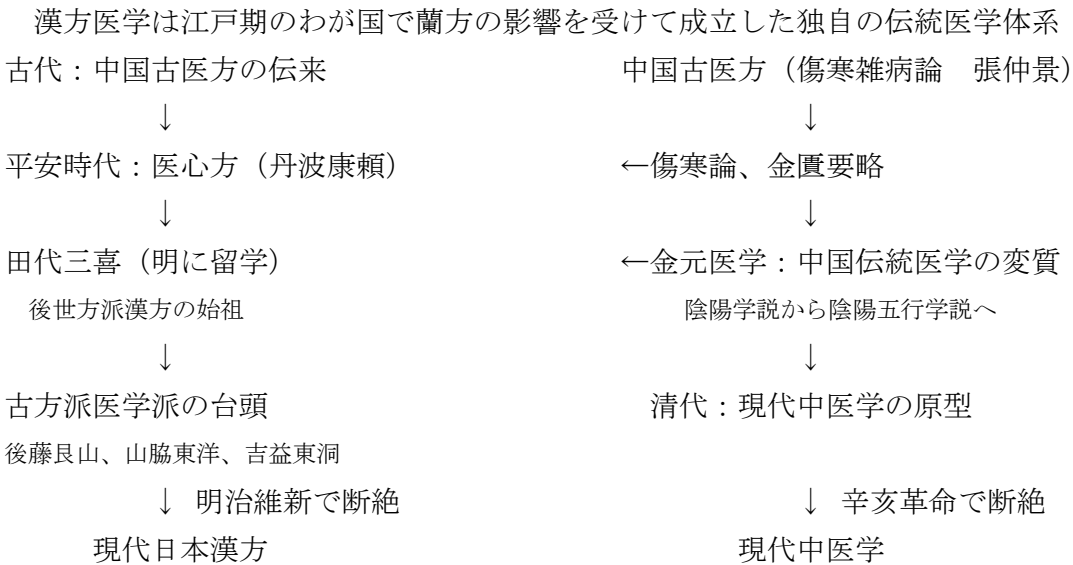


漢方医学とは？

■ 漢方医学と西洋医学の違いについて

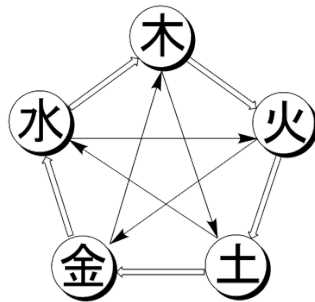
	西洋医学	漢方医学
理論	科学 理論的・実践的	哲学的色彩が濃い 理論より実践
診察・診断	分析的 局所的 客観的	総合的 全身的 主観的
治療法	対症療法 アロパシー的 マニュアル的	対証療法 哲学的アロパシー オーダーメイド的
薬物	純薬の単方が主	生薬の複方

■ よく理解されていない漢方医学と中医学の違い



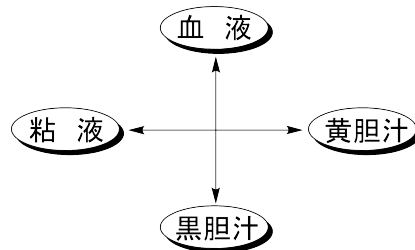
● 中医学の理論的支柱：五行説とは？

インド・トリドーシャの五大元素「空・風・火・水・地」説に起源が求められる。



●古代ギリシア医学の四体液病理学説

インド・トリドーシャの五大元素説の変形



●中医学では

★医学理論の各属性を木・心・土・金・水の五行要素に当てて運氣論に似た思弁でもって薬方を構築する

★五味は各薬物に当てられた薬性であってももとは五行説とは無関係であった

→五行要素	木	火	土	金	水
五臓	肝	心	脾	肺	腎
五腑	胆	小腸	胃	大腸	膀胱
五味	酸	苦	甘	辛	鹹
感覚器	眼	舌	唇	鼻	耳
組織	筋	血脈	肌肉	皮毛	骨

●四気とは

★中国本草は各薬物に四気の薬性を当てる

「寒・熱・温・涼の四気及び有毒・無毒有り」(神農本草経)

「寒を療ずるに熱薬を以ってし、熱を療ずるに寒薬を以ってす」(神農本草経)

本草特有ではなく、“四時の気”すなわち春温・夏熱・秋涼・冬寒を表し、天地間に消長する四季の気をいう陰陽説に基づく概念である！

実際に神農本草経収載の薬物に充てられた属性は大熱・温・微温・微寒・寒・平であ

り、もともとは温・微温・平・微寒・寒の五属性であったと思われ、これを五気と称することもある。“五”とはいえ、相生・相剋の関係にないから五行説とは無関係である。

★酸・苦・甘・辛・鹹の五味は、各薬物を識別するために便宜的に充てられた薬性であって、これも五行説とは無関係であった。

■漢方医学の理論的基盤

“証” の概念

★病人の体質を重視 陰陽説に基づいて表す

- 陰証 病邪が勝り体力低下の状態
- 陽症 体力が病邪に勝る状態

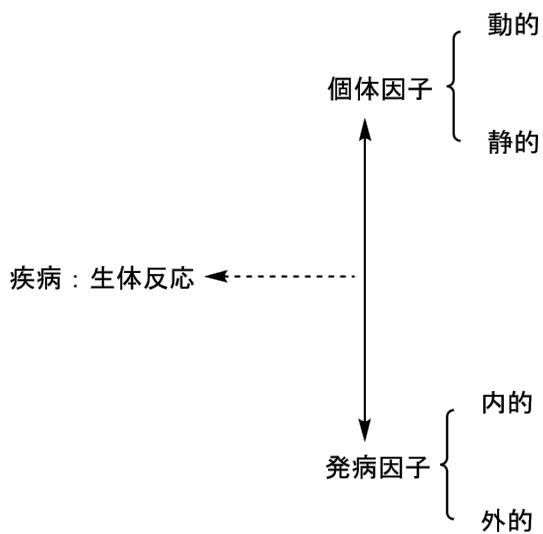
- 寒証 四肢が冷えるなど熱感が乏しい状態
- 熱症 熱感があり、寒気を感じても往来悪寒の状態

- 虚証 虚弱な体質で気力も不足する状態
- 実症 体力・気力も充実する状態

★病因を病邪に求めその位置で症状を診察する

- 表 病邪が皮膚・筋肉など身体の表層に留まっている状態
- 半表半裏 病邪が表・裏の間にある状態
- 裏 病邪が内臓など身体の奥にある状態

★病気の進行状態の認識が独特 三陰三陽六病位論



★脈診 脈の状態をもって病気の進行状態を判断する

浮脈（ふみやく）：指を軽くあててもわかる脈

沈脈（ちんみやく）：浮脈に対するもので指をかるくあてたくらいではわからず、強く圧してわかる脈

数脈（さくみやく）：拍動数の多い脈で、通例、1分間で90以上をいう

遅脈（ちみやく）：数脈の反対に拍動数の少ないものを指し、通例、1分間で60以上をいう

大（洪）脈（だいまやく、こうみやく）：左右横に幅の広い脈をいう

小（細）脈（しょうみやく、さいみやく）：大（洪）脈の反対で幅の狭い脈をいう
 弦脈（げんみやく）：弓の弦に触れるような感じの脈で上下動の少ない突っ張った脈

緊脈（きんみやく）：弦脈に似るが、弓の弦に触れて左右に動くように感じる脈

微脈（びみやく）：ごく弱い脈で注意してみないとわからない

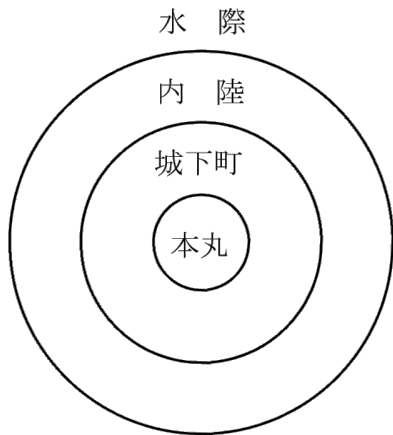
漢方では病気の進行状況によって発現する症状は同じと見なし、各病位で治療法が決定される。

★三陰三陽六病位論（陽証）

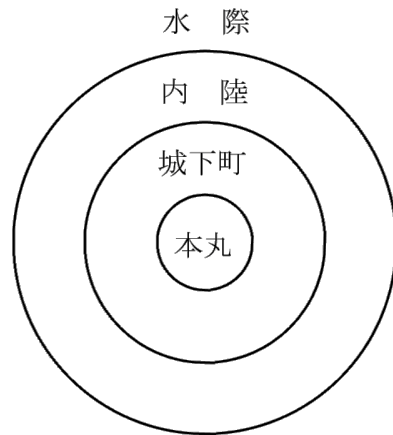
病位	太陽病	少陽病	陽明病
病毒位置	表	半表半裏	裏
熱感	あり、発熱	あり、往来悪寒	あり、持続熱
汗の状態	無汗		発汗
脈の状態	浮脈	弦脈	緊脈
症状	頭痛、頭重、肩こり、 関節痛	めまい、口渇、吐気、食 欲不振、胸脇苦満	便秘、腹満
治療	発汗	解毒	瀉下
主な処方	葛根湯、桂枝湯、麻黄湯、 大青竜湯	小柴胡湯、大柴胡湯、甘 草瀉心湯	白虎湯、大承気湯、小承気湯

★三陰三陽六病位論（陰証）

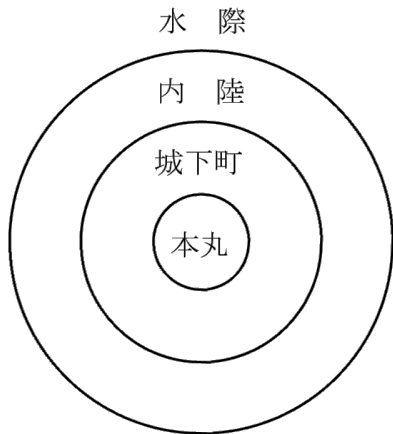
病位	太陰病	少陰病	厥陰病
病毒位置	裏	裏	裏
熱感	なし	なし、悪寒	
汗の状態			
脈の状態	沈脈	細脈	微脈
症状	下痢、嘔吐、腹満、腹 痛	手足の冷え、腹は軟弱 無力、心機能低下	意識朦朧
治療	温散	温散	温散
主な処方	桂枝加芍薬湯、桂枝加 大黄湯、小建中湯、八味 地黄丸	真武湯、麻黄附子細辛湯	四逆湯



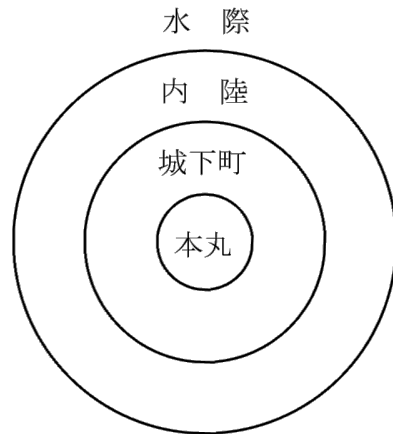
太陽病



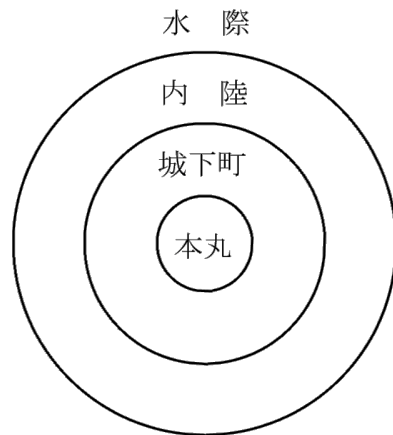
太陰病



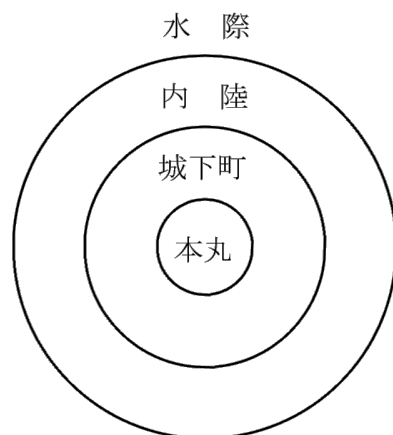
少陽病



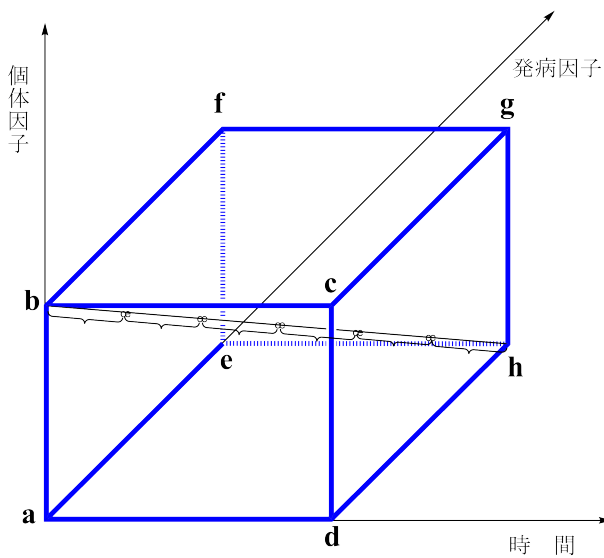
少陰病



陽明病



厥陰病



★ “虚実” による処方を使い分け

感冒・気管支炎における漢方の処方例 漢方医学は対証療法である！

証	初期	中期	後期
実証	麻黄湯	麻杏甘石湯	
↑	葛根湯	小柴胡湯	清肺湯
↑		滋陰降火湯	
↑			柴胡桂枝湯
虚実間	小青竜湯		
↓			
↓	桂枝湯	滋陰至宝湯	
↓			補中益气湯
虚証	真武湯		

< “虚実” の使い分けの処方例 >

● まおうとう 麻黄湯

マオウ、キョウニン、ケイヒ、カンゾウ

適応症状：鼻がつまって悪寒があり、汗は出ず、発熱、頭痛など身体各所に痛みがある。

● まきょうかんせきとう 麻杏甘石湯

マオウ、キョウニン、カンゾウ、セッコウ

適応症状：風邪が進行して咳が激しく、口渇、喘鳴、頭部発汗を伴う。

● かっこんとう 葛根湯

カッコン、マオウ、タイソウ、ケイヒ、シャクヤク、
カンゾウ、ショウキョウ

適応症状：首筋から肩にかけてこりがあり、頭痛や筋肉痛がある。

●しょうさいこうとう小柴胡湯

サイコ、ハンゲ、オウゴン、チクセツニンジン、
タイソウ、カンゾウ、ショウキョウ

適応症状：胸や脇腹が重苦しくて疲れやすく、往来悪寒、微熱、食欲不振、咳が出る。

●しょうせいりゅうとう小青竜湯

ハンゲ（半夏）、マオウ、シャクヤク、カンキョウ、
カンゾウ、ケイヒ、サイシン、ゴミシ

適応症状：水様の鼻水や痰が出て気管支炎を発症、あるいは風邪をひいたとき喘息発作を起こす。

●けいしとう桂枝湯

タイソウ、ケイヒ、シャクヤク、カンゾウ、ショウキョウ

適応症状：平素虚弱あるいは病後で体力が十分に回復しないときに風邪をひいた場合。

●ほちゅうえつきとう補中益気湯

ニンジン、ビャクジュツ、オウギ、トウキ、チンピ、
タイソウ、カンゾウ、サイコ、ショウキョウ、ショウマ

適応症状：もともと虚弱体質あるいは病後の衰弱した状態で元気がなく胃腸の働きが衰え食欲もなく疲れやすい場合。

●しんぶとう真武湯

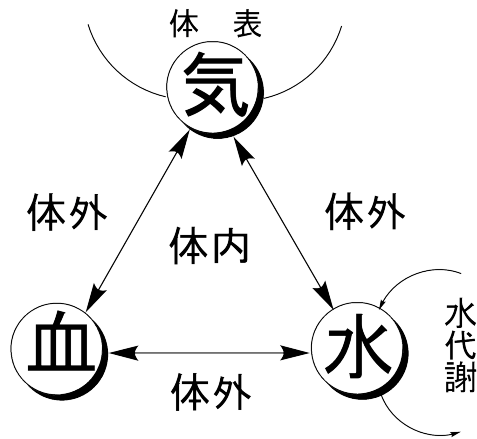
ブクリョウ、シャクヤク、ビャクジュツ（ソウジュツ）、
ショウキョウ、ブシ

適応症状：新陳代謝が低下して平素から身体の冷えがあり、しばしば下痢があり、腹痛を伴う場合。

★漢方独特の病理論：気・血・水病理論

き けつ すい気・血・水は生命の基調と考え、そのバランスが崩れた状態を病気と考える。一般に

各処方は気・血・水のそれぞれに対する薬剤を配合することが多い。



気剤（理気剤）：コウボク、ソヨウ、コウブシ、ハッカ、ケイヒなど

血剤（駆瘀血・補血剤）：トウニン、ボタンピ、センキュウ、トウキなど

水剤（利水・駆水剤）：ブクリョウ、ビャクジュツ、タクシャ、ボウショウ、など

1. 気 体内・体周に充満すると考え、見えないが感じるができるとする。

気 ⇔ 血・水（心・体の諸機能）

気鬱（息苦しさ・呼吸困難） 気虚（気力の低下） 気滞（気の滞りで身体機能が犯される）

<気の変調に対する漢方処方>

●^{はんげこうぼくとう}半夏厚朴湯

ハンゲ、ブクリョウ、コウボク、ソヨウ、ショウキョウ

適応症状：みぞおちに膨満感があり、手足が冷え、頭痛、しゃっくり、吐き気を伴う症状。

●^{こうそさん}香蘇散

コウブシ、ソヨウ、チンピ、ショウキョウ、カンゾウ

適応症状：慢性的に胃腸虚弱でかぜ薬がのめない体質、気鬱、虚証の患者でかぜの初期。

●^{かみしょうようさん}加味逍遥散

トウキ、ビャクジュツ、サイコ、シャクヤク、
ブクリョウ、サンシシ、ボタンピ、カンゾウ、
ショウキョウ、ハッカ

適応症状：肩こりがあり、疲れやすく精神不安があり、月経不順や更年期障害、冷え症などを伴っている場合。

2. 血 血の循環障害：瘀血 鬱血、高血圧、痔疾、月経不順など

症状：頭痛、不眠、肩こり、腹部胸満、便秘など

処方：驅瘀血薬

補血薬：血虚を療ずる 貧血

四物湯 十全大補湯（四物湯+四君子湯-タイソウ・ショウキョウ：合方・加減方）

<血の変調に対する漢方処方>

●^{とうかくじょうきとう}桃核承気湯

トウニン、ケイヒ、カンゾウ、ボウショウ、ダイオウ

適応症状：体力中等度以上で、のぼせて便秘しがちなものの次の諸症：月経不順、月経困難症、月経痛、月経時や産後の精神不安、腰痛、便秘、高血圧の随伴症状（頭痛、めまい、肩こり）、痔疾、打撲症。

●^{けいしぶくりょうがん}桂枝茯苓丸

ケイヒ、ブクリョウ、ボタンピ、トウニン、シャクヤク

適応症状：比較的体力があり、ときに下腹部痛、肩こり、頭重、めまい、のぼせて足冷えなどを訴えるものの次の諸症：月経不順、月経異常、月経痛、更年期障害、血の道症、肩こり、めまい、頭重、打ち身（打撲症）、しもやけ、しみ、湿疹・皮膚炎、にきび

●^{とうきしゃくやくさん}当归芍薬散

シャクヤク、タクシャ、センキュウ、ブクリョウ、
ビヤクジュツ、トウキ

適応症状：体力虚弱で、冷え症で貧血の傾向があり疲労しやすく、ときに下腹部痛、頭重、めまい、肩こり、耳鳴り、動悸などを訴えるものの次の諸症：月経不順、月経異常、月経痛、更年期障害、産前産後あるいは流産による障害（貧血、疲労倦怠、めまい、むくみ）、めまい・立ちくらみ、頭重、肩こり、腰痛、足腰の冷え症、しもやけ、むくみ、しみ、耳鳴り

●^{だいおうぼたんびとう}大黄牡丹皮湯

ボタンピ、トウニン、トウガシ、ダイオウ、ボウショウ

適応症状：体力中等度以上で、下腹部痛があつて、便秘しがちなものの次の諸症：月経不順、月経困難、月経痛、便秘、痔疾

●^{しもつとう}四物湯

トウキ、シャクヤク、センキュウ、ジオウ

適応症状：体力虚弱で、冷え症で皮膚が乾燥、色つやの悪い体質で胃腸障害のないものの次の諸症：月経不順、月経異常、更年期障害、血の道症、冷え症、しもやけ、しみ、

貧血、産後あるいは流産後の疲労回復

●^{じゅうぜんだいほう}十全大補湯

トウキ、シヤクヤク、センキュウ、ジオウ、ニンジン
ビヤクジュツ、ブクリョウ、カンゾウ、ケイヒ、オウギ

適応症状：体力虚弱なもの次の諸症：病後・術後の体力低下、疲労倦怠、食欲不振、
ねあせ、手足の冷え、貧血

3. 水 水毒（水の偏在・停滞） 虚証患者に多く現れる

浮腫、関節の腫れ、発汗の過多・過小、尿量の過多・過小、下痢、便秘、口渇

症状：咳、痰、冷え、めまい、頭痛、嘔吐、しゃっくりなど

処方：駆水（利尿にあらず）

<水の変調に対する漢方処方>

●^{りょうけいじゆつかんとう}苓桂朮甘湯

ブクリョウ、ケイヒ、カンゾウ、ビヤクジュツ

適応症状：体力中等度以下で、めまい、ふらつきがあり、ときにのぼせや動悸があるもの
の次の諸症：立ちくらみ、めまい、頭痛、耳鳴り、動悸、息切れ、神経症、神経過敏

●^{ごれいさん}五苓散

タクシャ、チョレイ、ブクリョウ、ビヤクジュツ、ケイヒ

適応症状：体力に関わらず使用でき、のどが渇いて尿量が少ないもので、めまい、は
きけ、嘔吐、腹痛、頭痛、むくみなどのいずれかを伴う次の諸症：水様性下痢、急性胃
腸炎（しぶり腹）のものには使用しないこと）、暑気あたり、頭痛、むくみ、二日酔

●^{しょうはんげかぶくりょうとう}小半夏加茯苓湯

ハンゲ、ブクリョウ、ショウキョウ

適応症状：体力に関わらず使用でき、悪心があり、ときに嘔吐するもの次の諸症：つ
わり、嘔吐、悪心、胃炎

●^{ごしゅゆとう}呉茱萸湯

ゴシュユ、ニンジン、タイソウ、ショウキョウ

適応症状：体力中等度以下で、手足が冷えて肩がこり、ときにみぞおちが膨満するもの
の次の諸症：頭痛、頭痛に伴うはきけ・嘔吐、しゃっくり

■生薬にも副作用はある

吉益東洞(1702-1773)「古書醫言」

「書に曰く、若し藥瞑眩せずんば厥の疾癒えずと」

「輜軒使者絶代語釋別國方言」卷三の注釈：「凡そ藥を飲み藥を伝けて毒す、(中略)之を瞑と謂う、或いは之を眩と謂う」

瞑眩 = 「藥の毒に当たる」

○瞑眩の本来の字義は“めまい”である

○藥を服用してめまいが起きるのはかなり重篤な作用が人体に発生していることを示唆する

○瞑眩は病氣好転の前に現れる生体反応ではなく副作用そのものと認識する必要がある

○漢方藥は必ずしも安全ではないことが認識されていた

生薬	主要成分	作用	症状	注意点
オウゴン	バイカリン	抗炎症・抗アレルギー	肝機能障害、間質性肺炎の恐れ	
カンゾウ	グリチルリチン酸	カリウム排泄促進	低カリウム血症、ミオパシー、偽アルドステロン症状	総投与量、利尿薬・グリチルリチン酸製剤との併用
サンシシ	イリドイド	鎮静、利胆利尿	突発性腸管膜静脈硬化症の恐れ	
ジオウ	イリドイド	補血・滋陰	食欲不振、下痢など胃腸障害	
ダイオウ	センノシド・アントラキノン類	瀉下	下痢、腹痛	過剰投与 虚証患者への適用
トウニン ボタンピ	青酸配糖体	駆瘀血	妊婦に流産・早産を起こす危険性があるといわれる	
ブシ	アコニチン	神経毒	動悸、のぼせ、舌の痺れ、悪心	
ボウショウ	硫酸ナトリウム	瀉下	下痢、浮腫	過剰投与
マオウ	エフェドリン	交感神経興奮・中枢興奮	不眠、動悸、頻脈、興奮、血圧上昇、発汗過多、排尿障害	循環器疾患患者・高齢者への投与

■生薬にも副作用はある

●小柴胡湯

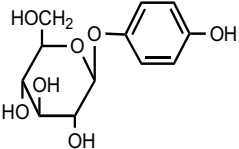
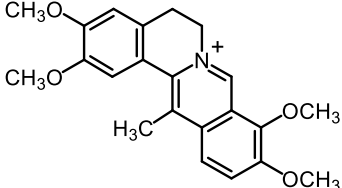
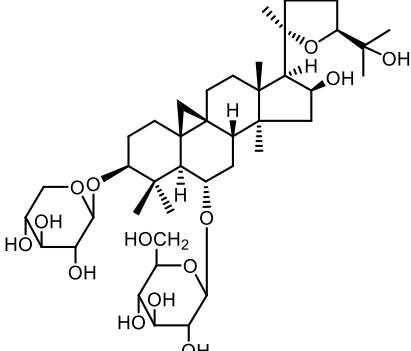
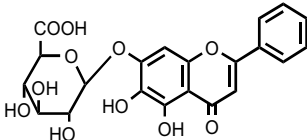
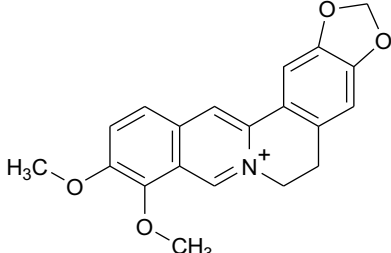
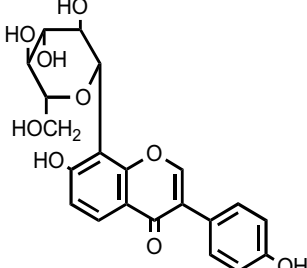
肝障害、間質性肺炎、膀胱炎様症状、偽アルドステロン症(主としてカンゾウに基づく)、扁平苔癬型皮疹

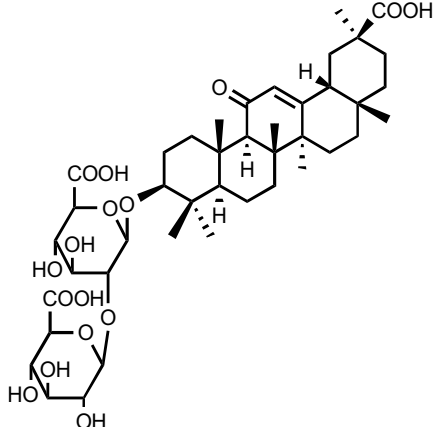
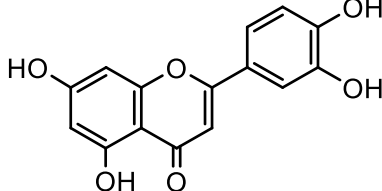
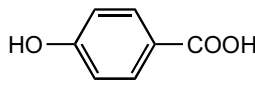
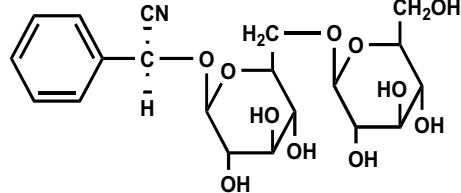
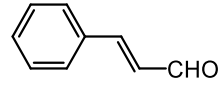
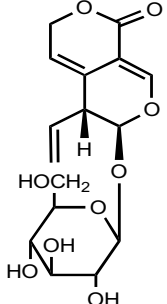
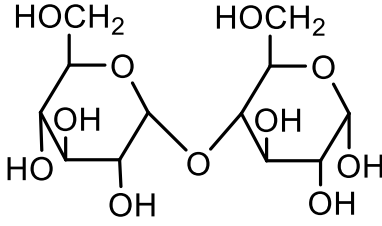
肝炎の治療でインターフェロンと併用したとき、間質性肺炎が多発、サイコあるいはサイコ・オウゴンの相乗作用といわれるが、未解明

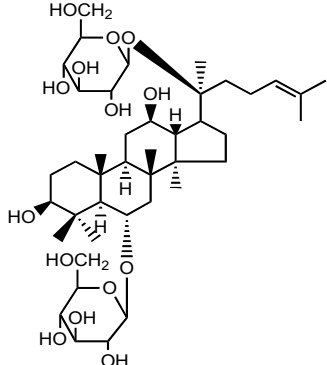
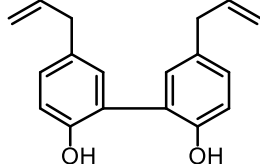
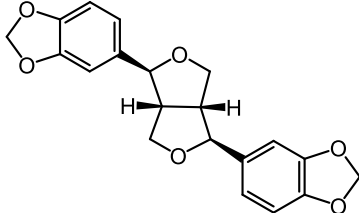
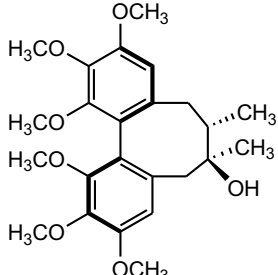
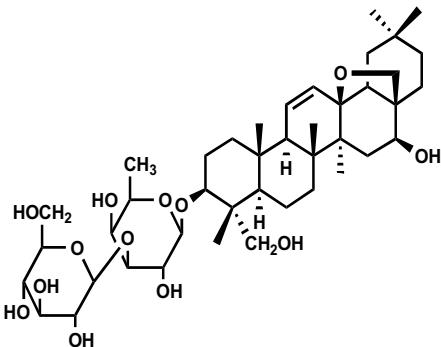
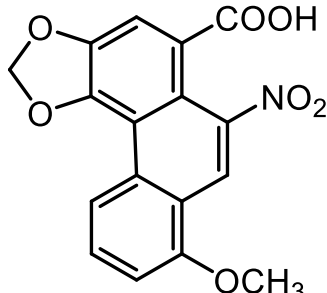
そのほか、前表の生薬を配合する漢方処方への長期投与には注意が肝要！

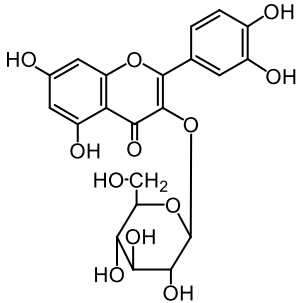
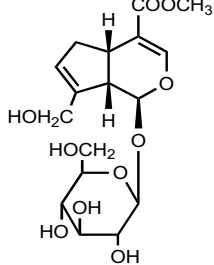
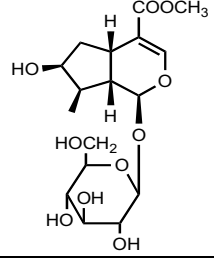
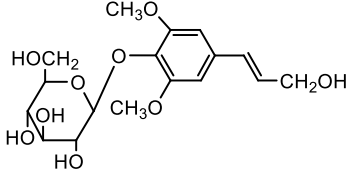
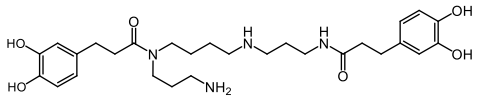
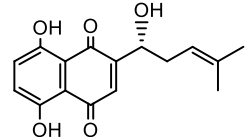
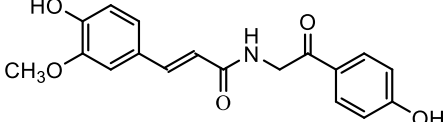
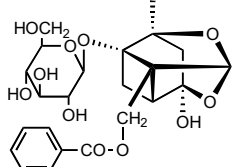
確認試験で TLC 法を適用及び成分定量をが規定される生薬一覧

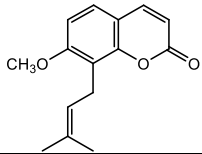
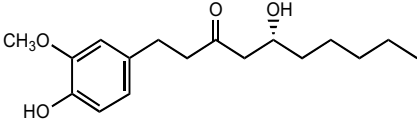
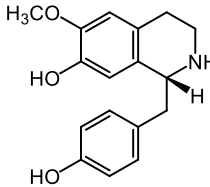
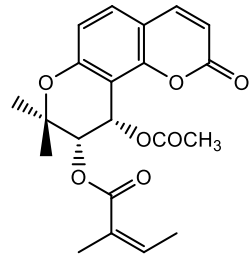
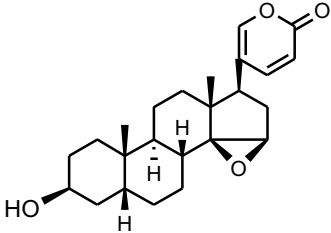
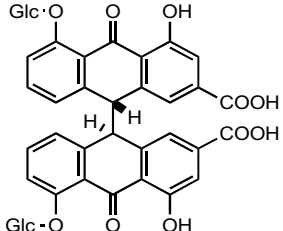
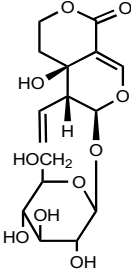
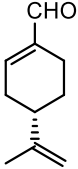
生薬名・基原	標準試料名 (英名)・総称名 生合成経路	構造式
アカメガシワ アカメガシワ <i>Mallotus japonica</i> の樹皮 トウダイグサ科(Euphorbiaceae)	ベルゲニン(Bergenin) ポリフェノール配糖体 シキミ酸	
アヘン ケシ <i>Papaver somniferum</i> の未熟果実から得られる乳液 ケシ科(Papaveraceae)	モルヒネ塩酸塩、コデインリン酸塩、パロペリン塩酸塩、ノスカピン塩酸塩 ベンジルイソキノリンアミノ酸 (チロシン)	
アラビアゴム アラビアゴムノキ <i>Acacia senegal</i> 又はその他同属植物の分泌物 マメ科(Leguminosae)	D-ガラクトース、L-アラビノース、L-ラムノース	
アロエ (定量) <i>Aloe ferox</i> 又はこれと <i>A. africana</i> 又は <i>A. spicata</i> との雑種の葉液汁 ユリ科(Liliaceae)	バルバライン(Barbaloin) アンス(ト)ロン配糖体 酢酸-マロン酸	
インチンコウ カワラヨモギ <i>Artemisia capillaris</i> の頭花 キク科(Compositae)	なし (ジメチルエスキュレチン)	
インヨウカク ホザキイカリソウ <i>Epimedium pubescens</i> 、イカリソウ <i>E. grandiflorum</i> var. <i>thunbergianum</i> ほかに同属植物の地上部 メギ科(Berberidaceae)	イカリイン(Icariin) フラボノール シキミ酸・酢酸-マロン酸	
ウイキョウ ウイキョウ <i>Foeniculum vulgare</i> の果実 セリ科(Umbelliferae)	なし (アネトール) フェニルプロパノイド シキミ酸	
ウコン (定量) ウコン <i>Curcuma longa</i> の根茎 ショウガ科(Zingiberaceae)	なし 定量: <u>Curcumin</u> , <u>Demethoxycurcumin</u> , <u>bis-Demethoxycurcumin</u>	
ウヤク テンダイウヤク <i>Lindera strychnifolia</i> の根 クスノキ科(Lauraceae)	なし (Lauroitsine ほかにアルカロイド) アポルフィン アミノ酸 (チロシン)	

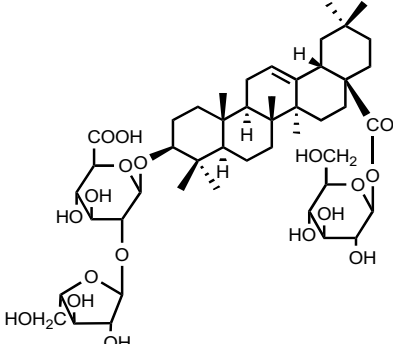
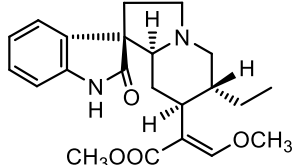
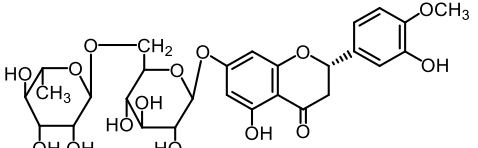
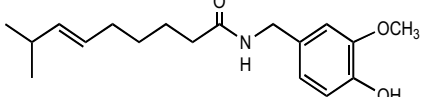
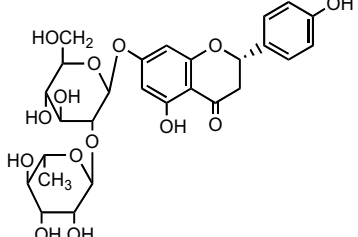
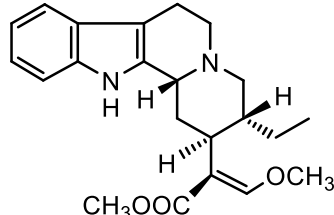
<p>ウワウルシ (定量) クマコケモモ <i>Arctostaphylos uva-ursi</i> の葉 ツツジ科(Ericaceae)</p>	<p>アルブチン(<u>Arbutin</u>) ヒドロキノン配糖体 シキミ酸</p>	
<p>エンゴサク (定量) <i>Corydalis turtschaninovi</i> f. <i>yanhusuo</i> の塊茎 ケシ科(Papaveraceae)</p>	<p>なし 定量: <u>Dehydrocorydaline</u> プロトベルベリン アミノ酸 (チロシン)</p>	
<p>オウギ キバナオウギ <i>Astragalus membranaceus</i> 又は <i>A. mongholicus</i> の根 マメ科(Leguminosae)</p>	<p>アストラガロシド IV (<u>Astragaloside IV</u>) サポニン (トリテルペン) イソプレノイド</p>	
<p>オウゴン (定量) コガネバナ <i>Scrophularia baicalensis</i> の根 シソ科(Labiatae)</p>	<p>バイカリン(<u>Baicalin</u>) フラボン配糖体 シキミ酸・酢酸-マロン酸</p>	
<p>オウバク (定量) キハダ <i>Phellodendron amurense</i> 又は <i>P. chinense</i> の樹皮 ミカン科(Rutaceae)</p>	<p>塩化ベルベリン(<u>Berberin</u>) ベンジルイソキノリン アミノ酸 (チロシン)</p>	
<p>オウレン (定量) オウレン <i>Coptis japonica</i>, <i>C. chinensis</i>, <i>C. deltoidea</i>, <i>C. teeta</i> の根茎 キンポウゲ科(Ranunculaceae)</p>	<p>同上</p>	<p>同上</p>
<p>カシュウ ツルドクダミ <i>Polygonum multiflorum</i> の塊根 タデ科(Polygonaceae)</p>	<p>なし (スチルベン配糖体)</p>	
<p>カッコウ <i>Pogostemon cablin</i> の地上部 シソ科(Labiatae)</p>	<p>なし</p>	
<p>カッコン (定量) クズ <i>Pueraria lobata</i> の根 マメ科(Leguminosae)</p>	<p>プエラリン(<u>Puerarin</u>) イソフラボン配糖体 シキミ酸・酢酸-マロン酸</p>	

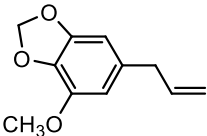
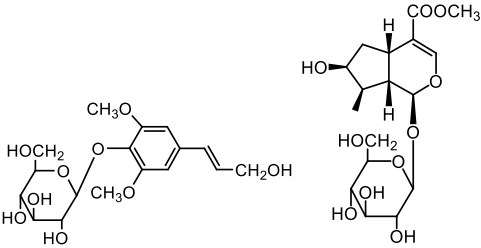
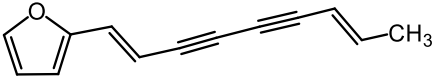
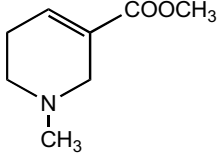
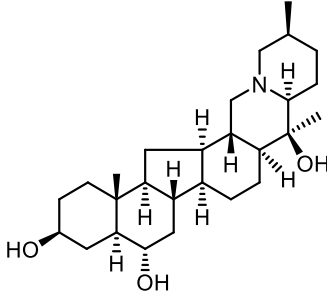
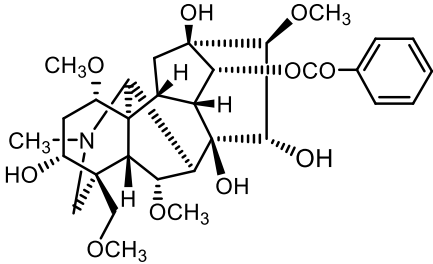
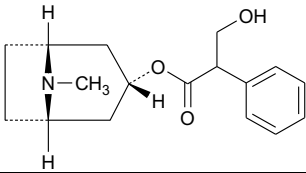
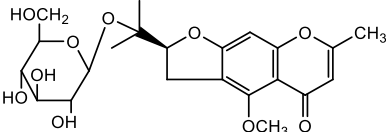
<p>カンゾウ (定量) <i>Glycyrrhiza uralensis</i> 又は <i>G. glabra</i> の根 及びストロン マメ科(Rutaceae)</p>	<p>グリチルリチン酸 (Glycyrrhizin) サポニン (トリテルペン) イソプレノイド</p>	
<p>キクカ キク <i>Chrysanthemum morifolium</i> 又はシ マカンギク <i>C. indicum</i> の頭花 キク科(Compositae)</p>	<p>ルテオリン(Luteolin) フラボン シキミ酸・酢酸-マロン酸</p>	
<p>キササゲ キササゲ <i>Catalpa ovata</i> 又は <i>C. bungei</i> の 樹皮 ノウゼンカズラ科(Bignoniaceae)</p>	<p>パラオキシ安息香酸 (<i>p</i>-Hydroxybenzoic acid) シキミ酸</p>	
<p>キョウカツ <i>Notopterygium incisum</i> 又は <i>N. forbesii</i> の 根と根茎 セリ科(Umbelliferae)</p>	<p>なし</p>	
<p>キョウニン (定量) ホンアンズ <i>Prunus armeniaca</i> 又はアン ズ <i>P. armeniaca</i> var. <i>ansu</i> の種子 バラ科(Rosaceae)</p>	<p>アミグダリン(Amygdalin) 青酸配糖体 シキミ酸</p>	
<p>ケイヒ <i>Cinnamomum cassia</i> の樹皮 クスノキ科(Lauraceae)</p>	<p>なし (シナムアルデヒド) フェニルプロパノイド シキミ酸</p>	
<p>ゲンチアナ <i>Gentiana lutea</i> の根 (および根茎) リンドウ科(Gentianaceae)</p>	<p>ゲンチオピクロシド (Gentiopicroside) セコイリドイド イソプレノイド</p>	
<p>コウイ トウモロコシ <i>Zea mays</i> (イネ科、 Gramineae), キャッサバ <i>Manihot</i> <i>esculenta</i> (トウダイグサ科、 Euphorbiaceae), ジャガイモ <i>Solanum</i> <i>tuberosum</i> (ナス科、Solanaceae), サツマ イモ <i>Ipomoea batatas</i> (ヒルガオ科、 Convolvulaceae)若しくはイネ <i>Oryza</i> <i>sativa</i> (イネ科、Gramineae)のデンプン又 はイネの種皮を除いた種子を加水分解 し、糖化したもの</p>	<p>マルトース</p>	

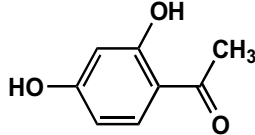
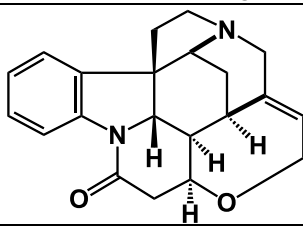
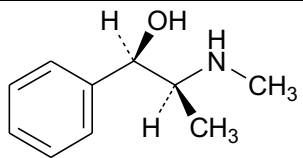
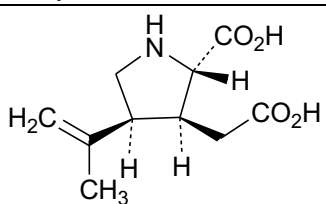
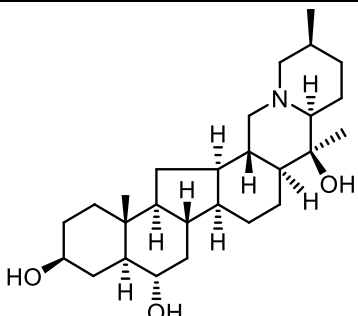
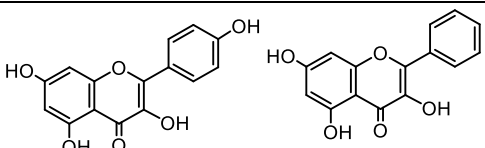
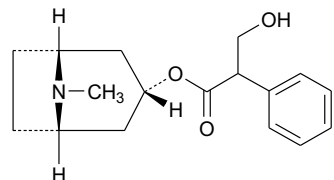
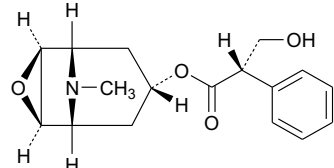
<p>コウジン (定量) オタネニンジン <i>Panax ginseng</i> (<i>P. schinseng</i>)の根 ウコギ科(Araliaceae)</p>	<p>ギンセノシド Rg₁ (Ginsenoside Rg₁) サポニン (ダンマラン) イソプレノイド</p>	
<p>コウベイ イネ <i>Oryza sativa</i> のえい果 イネ科(Gramineae)</p>	<p>なし</p>	
<p>コウボク (定量) ホウノキ <i>Magnolia obovata</i>, <i>M. officinalis</i> 又は <i>M. officinalis</i> var. <i>biloba</i> の樹皮 モクレン科(Magnoliaceae)</p>	<p>なし (アルカロイド) 定量 : マグノロール (Magnolol) リグナン シキミ酸</p>	
<p>ゴボウシ ゴボウ <i>Arctium lappa</i> の果実 キク科(Compositae)</p>	<p>なし</p>	
<p>ゴマ ゴマ <i>Sesamum indicum</i> の種子 ゴマ科(Pedaliaceae)</p>	<p>セサミン(Sesamin) リグナン シキミ酸</p>	
<p>ゴミシ チョウセンゴミシ <i>Schisandra chinensis</i> の果実 マツブサ科(Schisandraceae)</p>	<p>シザンドリン(Schisandrin) リグナン シキミ酸</p>	
<p>サイコ (定量) ミシマサイコ <i>Bupleurum falcatum</i> の根 セリ科(Umbelliferae)</p>	<p>サイコサポニン a (Saikosaponin a) サポニン (トリテルペン) イソプレノイド 定量 : サイコサポニン a とサイコサポニン d</p>	
<p>サイシン ウスバサイシン <i>Asiasarum sieboldii</i> 又は ケイリンサイシン <i>A. heterotropoides</i> var. <i>mandshuricum</i> の根と根茎 ウマノスズクサ科(Aristolochiaceae)</p>	<p>アリストロキア酸 I (Aristolochic acid I) ベンジルイソキノリン アミノ酸 (チロシン)</p>	

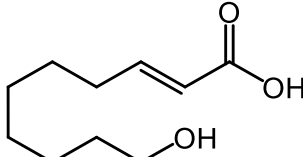
<p>サンザシ サンザシ <i>Crataegus cuneata</i> 又はオオミ サンザシ <i>C. pinnatifida</i> の偽果</p>	<p>ヒペロシド(Hyperoside) フラボノール配糖体 シキミ酸・酢酸-マロン酸</p>	
<p>サンシシ (定量) クチナシ <i>Grdenia jasminoides</i> の果実 アカネ科(Rubiaceae)</p>	<p>ゲニポシド(Geniposide) イリドイド イソプレノイド</p>	
<p>サンシュユ (定量) サンシュユ <i>Cornus officinalis</i> の偽果の果肉 ミズキ科(Cornaceae)</p>	<p>ログニン(Loganin) イリドイド イソプレノイド</p>	
<p>サンショウ サンショウ <i>Zanthoxylum piperitum</i> の成熟果皮 (果実) ミカン科(Rutaceae)</p>	なし	
<p>サンソウニン サネブトナツメ <i>Zizyphus jujuba</i> の種子 クロウメモドキ科(Rhamnaceae)</p>	なし	
<p>シゴカ エゾウコギ <i>Eleuterococcus senticosus</i> の根茎 ウコギ科(Araliaceae)</p>	<p>エレウテロシド B (Eleuteroside B) フェニルプロパノイド シキミ酸</p>	
<p>ジコッピ クコ <i>Licium chinense</i> 又は <i>L. barbarum</i> の根皮 ナス科(Solanaceae)</p>	<p>なし (クコアミン B) スペルミンアミド アミノ酸-シキミ酸</p>	
<p>シコン ムラサキ <i>Lithospermum erythrorhizon</i> の根 ムラサキ科(Boraginaceae)</p>	<p>なし (Shikonine) ナフトキノ系色素 シキミ酸・イソプレノイド</p>	
<p>シツリシ ハマビシ <i>Tribulus terrestris</i> の果実 ハマビシ科(Zygophyllaceae)</p>	なし (Terrestriamide)	
<p>シャカンゾウ (定量) カンゾウを煎ったもの</p>	カンゾウに同じ	
<p>シャクヤク (定量) シャクヤク <i>Paeonia lactiflora</i> の根 ボタン(Paeoniaceae)</p>	<p>ペオニフロリン (Paeoniflorin) モノテルペン配糖体 イソプレノイド</p>	

<p>ジャシヨウシ <i>Cnidium monnieri</i> の果実 セリ科(Umbelliferae)</p>	<p>オストール(Osthole) プレニルクマリン シキミ酸・イソプレノイド</p>	
<p>シャゼンソウ オオバコ <i>Plantago asiatica</i> の花期の全草 オオバコ科(Plantaginaceae)</p>	なし	
<p>シヨウキョウ シヨウガ <i>Zingiber officinale</i> の根茎 シヨウガ科(Zingiberaceae)</p>	<p>[6]-ギンゲロール (6-Gingerol) シキミ酸</p>	
<p>シンイ タムシバ <i>Magnolia salicifolia</i>、コブシ <i>M. kobus</i>、<i>M. biondii</i> 又はハモクレン <i>M. heptapeta</i> のつぼみ モクレン科(Magnoliaceae)</p>	なし [(+)-Coclaurine]	
<p>ゼンコ <i>Peucedanum praeruptorum</i> 又はノダケ <i>Angelica decursiva</i> (<i>P. decursiva</i>)の根 セリ科(Umbelliferae)</p>	<p>プラエルプトリン A (Praeruptorin A) プレニルクマリン シキミ酸-イソプレノイド</p>	
<p>センソ (定量) シナヒキガエル <i>Bufo bufo gargarizans</i> 又は <i>B. melanostictus</i> の毒腺の分泌物 ヒキガエル科(Bufonidae)</p>	<p>レジブフォゲニン (Resibufogenin) ステロイド イソプレノイド 定量：総ブフォステロイド</p>	
<p>センナ (定量) <i>Cassia angustifolia</i> 又は <i>C. acutifolia</i> の小葉 マメ科(Leguminosae)</p>	<p>センノシド A(Sennoside A) ジアンス (ト) ロン配糖体 酢酸-マロン酸 定量：センノシド A・B</p>	
<p>センブリ (定量) センブリ <i>Swertia japonica</i> の全草 リンドウ科(Rutaceae)</p>	<p>スウェルチアマリン (Swertiamarin) セコイリドイド イソプレノイド</p>	
<p>ソヨウ (定量) シソ <i>Perilla frutescens</i> var. <i>acuta</i> 又はチリ メンジソ <i>P. frutescens</i> var. <i>crispa</i> の葉と 枝先 シソ科(Labiatae)</p>	<p>ペリルアルデヒド (Perillaldehyde) モノテルペン イソプレノイド</p>	
<p>ダイオウ (定量) <i>Rheum palmatum</i>、<i>R. tangusticum</i>、<i>R. officinale</i>、<i>R. coreanum</i> 又はそれらの種間 雑種の根茎 タデ科(Polygonaceae)</p>	センナに同じ	

<p>チクセツニンジン (定量) トチバニンジン <i>Panax japonicus</i> の根茎 ウコギ科(Araliaceae)</p>	<p>チクセツサポニン IV (Chikusetsusaponin IV) サポニン (トリテルペン) イソプレノイド</p>	
<p>チョウトウコウ (定量) カギカズラ <i>Uncaria rhynchophylla</i>, <i>U. sinensis</i> 又は <i>U. macrophylla</i> のとげ アカネ科(Rubiaceae)</p>	<p>定量 : <u>Rhynchophylline</u>, <u>Hirsutine</u> インドールアルカロイド アミノ酸 (トリプトファン) ・ イソプレノイド</p>	
<p>チンピ (定量) ウンシュウミカン <i>Citrus unshiu</i> 又は <i>C. reticulata</i> の成熟した果皮 (Rutaceae)ミカン科</p>	<p>定量 : <u>Hesperidin</u> フラバノン配糖体 シキミ酸・酢酸-マロン酸</p>	
<p>テンマ オノノヤガラ <i>Gastrodia elata</i> の塊茎 ラン科(Orchidaceae)</p>	<p>なし</p>	
<p>テンモンドウ クサスギカズラ <i>Asparagus cochichinensis</i> の塊茎 ユリ科(Liliaceae)</p>	<p>なし</p>	
<p>トウガシ トウガン <i>Benincasa cerifera</i> 又は <i>B. cerifera</i> f. <i>emarginata</i> の種子 ウリ科(Cucurbitaceae)</p>	<p>なし</p>	
<p>トウガラシ (定量) トウガラシ <i>Capsicum annuum</i> の果実 ナス科(Solanaceae)</p>	<p>カプサイシン (<u>Capsaicin</u>)</p>	
<p>トウニン モモ <i>Prunus persica</i> 又は <i>P. persica</i> var. <i>dauriana</i> の種子 バラ科(Rosaceae)</p>	<p>キョウニンに同じ</p>	
<p>トウヒ <i>Citrus auratum</i> 又はダイダイ <i>C. auratum</i> var. <i>daidai</i> の成熟果皮 ミカン科(Rutaceae)</p>	<p>ナリンギン(Naringin) フラバノン配糖体 シキミ酸・酢酸-マロン酸</p>	
<p>ドクカツ ウド <i>Aralia cordata</i> の根茎 ウコギ科(Araliaceae)</p>	<p>なし</p>	
<p>トコン (定量) <i>Cephaelis ipecacuanha</i> 又は <i>C. acuminata</i> の根と根茎 アカネ科(Rubiaceae)</p>	<p>定量 : <u>Emetine</u>, <u>Cephaeline</u> イツキノリン アミノ酸 ・ イソプレノイド</p>	

<p>ニクズク ニクズク <i>Myristica fragrans</i> の種子 ニクズク科(Myristicaceae)</p>	<p>ミリスチシン(Myristicin) フェニルプロパノイド シキミ酸</p>	
<p>ニンジン</p>	<p>コウジンに同じ</p>	
<p>ニンドウ スイカズラ <i>Lonicera japonica</i> の葉および 茎 スイカズラ科(Caprifoliaceae)</p>	<p>ロガニン(Loganin) イリドイド イソプレノイド クロロゲン酸 (Chlorogenic acid) フェニルプロパノイド シキミ酸</p>	
<p>ビヤクゴウ オニユリ <i>Lilium lancifolium</i>、ハカタユリ <i>L. brownie</i> var. <i>colchesteri</i> ほかに同属種の 鱗片葉 ユリ科(Liliaceae)</p>	<p>なし</p>	
<p>ビヤクジュツ オケラ <i>Atractylodes japonica</i> 又はオオバ ナオケラ <i>A. macrocephala</i> の根茎</p>	<p>なし (ソウジュツの成分 Atractylodin を認めない)</p>	
<p>ビワヨウ ビワ <i>Eriobotrya japonica</i> の葉</p>	<p>なし</p>	
<p>ビンロウジ ビンロウ <i>Areca catechu</i> の種子 ヤシ科(Palmae)</p>	<p>アレコリン臭化水素酸塩 (arecoline) ペペリジン</p>	
<p>バイモ アミガサユリ <i>Fritillaria verticillata</i> var. <i>thunbergii</i> の鱗茎 ユリ科(Liliaceae)</p>	<p>なし (Peimine ほか) プソイアルカロイド イソプレノイド+NH₃</p>	
<p>ブシ (定量) ハナトリカブト <i>Aconitum carmichaeli</i> 又は <i>A. japonicum</i> の塊根 キンポウゲ科(Ranunculaceae)</p>	<p>塩酸ベンゾイルメサコニチ ン(Benzoylmesaconitine) プソイアルカロイド イソプレノイド+R-NH₂ 定量: <u>Benzoylaconitine</u></p>	
<p>ベラドンナコン (定量) <i>Atropa belladonna</i> の根 ナス科(Solanaceae)</p>	<p>アトロピン硫酸塩 (Atropine) トロパン アミノ酸・ポリケチド 定量: Hyoscyamine</p>	
<p>ヘンズ フジマメ <i>Dolichos lablab</i> の種子 マメ科(Leguminosae)</p>	<p>なし (スコポレチン)</p>	
<p>ボウフウ <i>Saposhnikovia divaricata</i> の根と根茎 セリ科(Umbelliferae)</p>	<p>4'-O-Glucosyl-5-O-methylvi- 4'samminol クロモン 酢酸-マロン酸</p>	

<p>ボタンピ° (定量) ボタン <i>Paeonia suffruticosa</i> (<i>P. moutan</i>)の根皮 ボタン科(Rutaceae)</p>	<p>ペオノール(Paeonol) 酢酸-マロン酸</p>	
<p>ホミカ (定量) <i>Strychnos nux-vomica</i> Linné の種子 マチン科(Loganiaceae)</p>	<p>ストリキニーネ (Strychnine)</p>	
<p>マオウ (定量) <i>Ephedra sinica</i>, <i>E. intermedia</i> 又は <i>E. equisetina</i> の地上茎 マオウ科(Ephedraceae)</p>	<p>なし 定量 : Ephedrine, Pseudoephedrine</p>	
<p>マクリ マクリ <i>Digenea simplex</i> の全藻 フジマツモ科(Rhodomelaceae)</p>	<p>カイニン酸 (kainic acid) アミノ酸・DMAPP</p>	
<p>マシニン アサ <i>Cannabis sativa</i> の果実 クワ科(Moraceae)</p>	<p>なし</p>	
<p>ヤクモソウ メハジキ <i>Leonurus japonicus</i> 又は <i>L. sibiricus</i> の花期の地上部 シソ科(Labiatae)</p>	<p>なし</p>	
<p>ユウタン <i>Ursus arctos</i> 又はその他の近縁動物 (<i>Ursidae</i>)の胆汁の乾燥品</p>	<p>タウロウルソデオキシコール酸ナトリウム(Tauroursodeoxycholic acid) ステロイド イソプレノイド</p>	
<p>リュウタン (定量) トウリンドウ <i>Gentiana scabra</i>, <i>G. manshurica</i> 又は <i>G. triflora</i> の根(と根茎) リンドウ科(Gentianaceae)</p>	<p>ゲンチアナに同じ</p>	
<p>リョウキョウ リョウキョウ <i>Alpinia officinarum</i> の根茎 ショウガ科(Zingiberaceae)</p>	<p>なし (ガランギン・ケンフェロール) フラボノール シキミ酸・酢酸-マロン酸</p>	
<p>ロートコン (定量) ハシリドコロ <i>Scopolia japonica</i>, <i>S. carniolica</i> 又は <i>S. parviflora</i> の根茎(及び根) ナス科(Rutaceae)</p>	<p>アトロピン硫酸塩 (Atropine) トロパン アミノ酸・ポリケチド</p>	
	<p>スコポラミン臭化水素酸塩 (Scopolamine) トロパン アミノ酸・ポリケチド</p>	

ローヤルゼリー (定量) ヨーロッパミツバチ <i>Apis mellifera</i> 又は トウヨウミツバチ <i>A. cerana</i> (Apidae)の 頭部の分泌線から分泌される液又はそ の乾燥品	10-ヒドロキシ-2-(E)-デセン 酸 (<u>10-Hydroxy-2-(E)-</u> <u>decenoic acid</u>) 脂肪酸 酢酸-マロン酸	
--	--	---

1. アルカロイドを含む生薬 *は確認試験でドラージェンドルフ呈色が規定されるもの

- アヘン (モルヒネ・コデイン：モルヒナン、ベンジルイソキノリン系)
 - (パパベリン：ベンジルイソキノリン、ベンジルイソキノリン系)
 - (ノスカピン：フタリドイソキノリン、ベンジルイソキノリン系)
- ウヤク (ラウロリツイン：アポルフィン、ベンジルイソキノリン系)
- *エンゴサク (プロトピン、ベンジルイソキノリン系)
 - (デヒドロコリダリン：ベルベリン、ベンジルイソキノリン系)
- オウレン・オウバク (ベルベリン、ベンジルイソキノリン系)
- *クジン (マトリン、ルピナン系)
- *ゴシュユ (エボジアミンなど、インドール系)
- シンイ (コクラウリン：ベンジルイソキノリン系)
- *センコツ (ヌファジリン、プソイドアルカロイド)
- チョウトウコウ (リンコフィリン：モノテルペンインドール系)
- トコン (エメチン、イソキノリン系)
- ビンロウジ (アレコリン、ピペリジン系)
- ベラドンナコン・ロートコン (アトロピン、トロパン系)
- バイモ (ペイミン：ステロイドアルカロイド)
- ブシ (アコニチン：アコナン、ジテルペンアルカロイド)
- ベラドンナコン (アトロピン：トロパンアルカロイド)
- *ボウイ (シニメニン：モルヒナン、ベンジルイソキノリン系)
- ホミカ (ストリキニーネ、モノテルペンインドール系)
- マオウ (エフェドリン：プソイドアルカロイド)
- レンニク (コクラウリン：ベンジルイソキノリン系)
- ロートコン (アトロピン・スコポラミン、トロパンアルカロイド)

2. 精油を含む生薬 *は精油含量が規定されるもの

- モノテルペン・セスキテルペン系
- ガイヨウ・ガジュツ、キジツ・ケイガイ・サンショウ・*ショウズク・*シンイ・*ソヨウ・
- *ハッカ・*チンピ・*トウヒ (以上、メントール系)
- ウヤク・カッコウ・*カノコソウ・*ガジュツ・*コウブシ・コウボク・*シュクシャ・
- ショウキョウ・*ソウジュツ・*ビヤクジュツ・*ヤクチ・リョウキョウ
- (以上、モノ・セスキテルペン混在)
- フェニルプロパノイド系

*ウイキョウ (アネトール)・*ケイヒ (シンナムアルデヒド)・サイシン・

*チョウジ (オイゲノール)

フタリド系

センキュウ・トウキ

3. サポニンを含む生薬 *は確認試験で起泡性試験が規定されるもの、下線を付したものは確認試験で Liebermann-Burchard 呈色が規定されるもの

トリテルペン系

*イレイセン・オウギ・*オンジ・カンゾウ・*キキョウ・コウジン・*ゴシツ・*サイコ・
サンソウニン・*セネガ・タイソウ・チクセツニンジン・ニンジン・*モクツウ

ステロイド系

サンキライ・*チモ・テンモンドウ・バクモンドウ・ビヤクゴウ

4. フラボノイド (広義) を含む生薬 *は確認試験で Mg-HCl 反応が規定されるもの

オウヒ・*キジツ・シャゼンソウ・チンピ・トウヒ (フラバノン配糖体)

*エイジツ・サンザシ・*ジュウヤク・ヤクモソウ・*レンギョウ (フラボノール配糖体)

インヨウカク・オウヒ・オウゴン・キクカ・サンソウニン・シャゼンソウ・センブリ

(以上、フラボン配糖体)

ソウハクヒ・リョウキョウ (フラボン)

オウギ・オウヒ・カッコン (イソフラボン)

オウヒ・コウカ (カルコン配糖体)

ソボク・バクモンドウ (ホモイソフラボノイド)

5. クマリンを含む生薬 *はフロクマリンを含むもの

インチンコウ・*キョウカツ・*ジャショウシ・ゼンコ・*ハマボウフウ・*ビヤクシ・
ヘンズ・*ボウフウ・ロートコン

6. アントラキノンまたはアンス (ト) ロンを含む生薬 *はアンスロンを含むもの

*アロエ・カシュウ・ケツメイシ・*センナ・*ダイオウ

7. リグナンを含む生薬 *はネオリグナンを含むもの

*オウヒ・*コウボク・ゴボウシ・ゴマ・ゴミシ・サイシン・*シツリシ・*シンイ・

トチュウ・レンギョウ

8. クロモンを含む生薬

インチンコウ・オウヒ・ショウマ・ボウフウ

9. タンニンを含む生薬 *は確認試験で FeCl₃ 呈色が規定されるもの

アカメガシワ・アセンヤク・*ウワウルシ・ケイヒ・*ゲンノショウコ・サンシュユ・

*シャクヤク・センコツ・ダイオウ・*チモ・*チョウジ・ビンロウジ・ボクソク・マオウ

10. 色素を含む生薬 黄色色素のフラボン・フラボノールは 4 を参照

コウカ (カルタミン、フラボノイド系)

シコン (シコニン、ナフトキノン系)

サフラン・サンシシ（クロシン、アポカルテノイド系）

アロエ・ケツメイシ・センナ・ダイオウ（アントラキノン）

ソボク（ブラジレイン、ホモイソフラボノイド系）

11. 味覚の顕著な生薬

甘味成分 カンゾウ：グリチルリチン酸 アマチャ：フィロズルチン

苦味成分 センブリ・ゲンチアナ・リュウタン（セコイリドイド、苦味配糖体）

辛味成分 カンキョウ・ショウキョウ：ギンゲロール サンショウ：サンショオール